

平成 28・29 年度 文部科学省道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業

平成 28・29 年度 静岡県道徳教育推進事業

# 研究 紀要

研究主題

主体的に判断・行動し、  
他者とよりよく生きようとする児童生徒の育成

平成 29 年 11 月 22 日 (水)

島田市立六合中学校

島田市立六合小学校

島田市立六合東小学校



## 1 研究の概要

(1) 研究主題	1
(2) 主題設定の理由	1
(3) 研究内容	1
(4) 研究構想図	2

## 2 具体的な取組

(1) 授業研究部	
ア 取組の概要・成果と課題	3
イ 授業づくりの視点	4
(ア) ねらいの明確化	5
(イ) 発問の吟味	6
(ウ) 自己の振り返りの充実	8
ウ 授業案について	10
エ 授業実践例	11
オ 板書例	17
(2) 実践研究部	
ア 取組の概要・成果と課題	19
イ 道徳教育全体計画・別葉・年間指導計画	20
(ア) 重点目標と重点内容項目（3校共通の重点）の設定	20
(イ) 道徳教育全体計画・別葉・年間指導計画の作成	20
(ウ) 別葉・年間指導計画の見直し	23
ウ 道徳の時間と各教科等との関連的指導の工夫	25
(ア) 各教科等における取組	25
(イ) 特別活動における取組	28
(ウ) 生徒指導における取組	31
(あいさつ、だまってそうじ、はきものそろえ)	
(エ) 「私（わたし）たちの道徳」の活用	33
(オ) 環境整備	35
(3) 連携研究部	
ア 取組の概要・成果と課題	37
イ 地域との連携の具体例	38
ウ 家庭との連携の具体例	39
エ 学校間の連携の具体例	40

資料1	平成29年度	島田市立六合中学校道徳教育全体計画	41
資料2	平成29年度	島田市立六合小学校道徳教育全体計画	42
資料3	平成29年度	島田市立六合東小学校道徳教育別葉（4年）	43

研究同人

## はじめに

平成 30、31 年度に全面実施となる「特別の教科 道徳」（道徳科）の改訂に伴い、小中学校における道徳の指導内容が定まり、授業改善の動きが本格化しています。六合中学校区 3 校（六合中学校、六合小学校、六合東小学校）では、昨年度から文部科学省と静岡県教育委員会の指定を受け、道徳教育の抜本的改善・充実に向けて、創意工夫を生かして道徳教育を推進しているところであります。

六合中学校区 3 校では、島田市の教育方針「豊かな心を育てる」を受け、健全な自尊感情を持ち、個人として自立し、人との主体的な関わりの中で、よりよい社会作りに参画し行動することができる児童生徒を育成することを目指してきました。今、児童生徒が直面する課題として、いじめ問題や不登校、適切な人間関係が作れずキレる子供への対応などが挙げられます。そうした諸課題に対して、主体的に関わり、自分を大切にしながら、まわりの人たちとよりよく生きる資質・能力を身に付けさせなければなりません。私たちは、小中学校 9 年間を見通し、各発達段階における指導の重点を明確にした系統的な「道徳の時間」（縦の接続）及び、家庭と地域の理解と協力に基づいた「学校生活全般における道徳教育」（横の連携）を意識した小中連携カリキュラムを作成しました。そして、教育活動全体を通じて、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考えて、自己の生き方について考えを深める道徳教育の充実を図ってきました。

研究を始めた頃は、全体計画はできていたものの、別葉や年間指導計画を作成する時には研修部や各学年の道徳担当中心の取組で、全職員が関わってみんなで創っていると言える状況ではありませんでした。しかし、何度も研修を重ねるうちに、職員の意識に変化が生まれ、事前研修→授業→事後研修のサイクルが定着しはじめました。すべての職員が児童生徒の道徳性を養うために、ねらいを明確にしよう、発問を吟味しようとする次第に活発な意見交換ができるようになりました。このように職員が道徳の授業改善を「自分事として考える」ようになって、児童生徒の姿にもよい変化が見られるようになってきました。道徳の授業では、活発な意見交換が見られ、授業で扱う道徳的諸価値について自分事として捉え、よりよく生きるためにはどうしたらいいかをじっくり考え議論することができるようになりました。道徳の授業が好きだという児童生徒の割合も多くなってきました。問題解決的な学習や体験的な学習に挑戦し、「考え、議論する道徳」の授業実践を地道に積み重ねてきました。私たちは今、これまでの授業改善の取組に確かな手応えを得て、さらなる研修を深めていきたいと考えています。また、授業の充実が教科や特別活動など他の教育活動によい影響を及ぼし、児童生徒の姿から道徳教育が深まっていることを感じます。

このたび、六合中学校区で実践してきた成果を研究紀要にまとめ、授業公開で児童生徒の様子を見ていただくこととなりました。本研究が、参観された多くの学校の参考事例として活用されますとともに、たくさんの御意見をいただけることを願っています。

最後になりましたが、御指導をいただきました岐阜大学大学院准教授柳沼良太先生、元東京家政学院大学教授長谷徹先生、静岡教育事務所地域支援課教育主査・島田市教育委員会学校教育課指導主事の皆様をはじめ、多くの関係の皆様にご心より感謝を申し上げます。

島田市立六合中学校長 園田 豊

## 1 研究の概要

### (1) 研究主題

主体的に判断・行動し、他者とよりよく生きようとする児童生徒の育成

### (2) 主題設定の理由

情報化やグローバル化が人知を超えて加速度的に進展している現代では、将来子供たちが就く職業やどういった人生を歩むのかが予測不能である。このような未来を生き抜くためには、自分なりに試行錯誤したり、多様な他者と協働したりして新たな価値を生み出していくこと、予測できない変化に受け身で対処するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、自らの可能性を発揮し、よりよい社会と幸福な人生を創造していくことが重要となる。一人一人の子供が、こうした人生を送れるよう、私たちは、目の前にいる子供たちにとって必要な資質・能力を丁寧に、そして確実に育んでいかなければならない。

では、六合中学校区3校の子供たちに育みたい資質・能力とは何か。

子供たちのよさとしては、「素直で明るい」「決められたことに一生懸命に取り組む」等が挙げられる。一方で、「状況に応じて、自分で判断し、行動すること」「自信のなさ（自己肯定感の低さ）」などの課題も散見されることから、小中9年間を通して、「自ら考え、行動する」「他者と進んで協働する」「よりよい人間関係を築いていく」等の力を育てていく必要があると考えた。

このような理由から、研究主題を「主体的に判断・行動し、他者とよりよく生きようとする児童生徒の育成」とし、3校共通の重点を、「自主自律・思いやり」とすることとした。

### (3) 研究内容

研究主題及び3校共通の重点の具現を目指し、「児童生徒が主体的に考え、議論する道徳の授業を推進すること」「人との関わりの中で、自主自律・思いやりの心を育むこと」を研究内容の核と位置付け、3校の職員で構成する授業研究部、実践研究部、連携研究部の3部を組織し、研究を進めることとした。各部の主な取組の概要は次のとおりである。

#### ア 授業研究部

各校の研修主任が中心となり、授業づくりの視点を作成し、3校合同の授業研究、各校における授業実践を通して、常に見直しを図り、道徳授業の質的改善を進めた。

##### (7) 授業づくりの視点

「ねらいの明確化」「発問の吟味」「自己の振り返りの充実」

##### (4) 三校合同授業研究会の実施

各校が輪番で会場校となり、授業研究、講演会を実施した。

#### イ 実践研究部

各校の道徳教育推進教師が中心となり、道徳の時間と各教科等のつながりを明確化し、小中9年間のつながり及び各教科等のつながりを意識した、計画的かつ効果的な道徳教育の推進を支えた。主な取組は次の3点である。

##### (7) 道徳教育全体計画、別業、年間指導計画の作成と活用

##### (4) 「私（わたし）たちの道徳」の活用

##### (5) 和文化教育に関連した道徳教育

#### ウ 連携研究部

各校の教務主任が中心となり、主に次の2点に取り組んだ。

##### (7) 家庭・地域との連携推進

- ・学校だより及び学校ホームページの活用（保護者、地域住民への道徳教育に関する発信）
- ・親子道徳の開催（講師を招き、子供と保護者、地域住民が参加する講演会等の開催）
- ・保護者等への道徳授業公開（保護者、学校評議員、民生委員等への授業公開）

##### (4) 道徳教育の効果検証

児童生徒、保護者、教員の道徳教育に関する意識調査の実施

### (4) 研究構想図（次ページ参照）

研究主題

# 主体的に判断・行動し、他者とよりよく生きようとする児童生徒の育成

三校共通の重点

## 自主 自律・思いやり

児童生徒の実態

- 素直で明るい。
- 気持ちの切り替えが早い。
- 決められたことに一生懸命に取り組むことができる。
- 友達の考えをしっかりと聴くことができる。
- 地域の行事や活動に積極的に参加することができる。
- ▲自分で考えて行動する力が弱い。
- ▲自己肯定感が低い。
- ▲挨拶、返事などその場に合った適切な対応ができない。

六合地区小中連携教育

【根幹となるもの】

- ◆9年間で児童生徒を見守り、育てる。
  - ・義務教育9年間を見通し、児童生徒の学習・生活状況を相互に理解し、小中が一貫した指導を行う。
  - ・学力観や指導観を共有し、確かな学力の定着と一人一人の個性や能力の伸長、豊かな心の育成を図る。
- 【主なねらい】
- ◆児童生徒が安心して学習や生活ができる環境及び体制をつくる。
  - 3校の教職員が「三校共通の重点」及び道徳の授業改善の方向性を共通理解し、道徳の授業を核とした教育活動全体を通じた道徳教育の推進に取り組み、児童生徒に確かな学力、豊かな心を育む。
- ◆六合地区の特色を生かした道徳教育を推進する。
  - 3校で共通した取組を行ったり、三校合同研修会において実践を持ち寄り学び合ったりする。
- ◆教員の指導力向上を図る。
  - 三校合同研修会、小中学校教員による授業参観、生徒指導連絡会等を通して、道徳の授業改善、児童生徒理解を深める。

目指す児童生徒の姿

- ◎自ら考え、行動することができる。
- ◎他者と進んで協働することができる。
- ◎よりよい人間関係を築くことができる。

研究内容

- (1) 児童生徒が主体的に考え、議論する道徳の授業を推進する。  
問題を自分のこととして考え、議論する道徳の授業を9年間積み重ねることで、適切に判断し行動する力を培う。
- (2) 人との関わりの中で、自主自律・思いやりの心を育む。  
学校、家庭、地域等で人との関わりを大切にした道徳教育を推進することにより、自主自律・思いやりの心を育む。

研究組織

### 六合小中連携推進委員会

### 六合地区三校合同研究推進委員会

#### 連携研究部

- 家庭・地域との連携推進
  - ・学校だよりの道徳コーナー及び学校ホームページ
  - ・親子道徳
  - ・情報発信
- 道徳教育の効果検証
  - ・児童生徒、保護者、教員の意識調査

#### 授業研究部

- 考え、議論する道徳の授業づくり
  - ・授業づくりの視点の設定
  - 「ねらいの明確化」「発問の吟味」「自己の振り返りの充実」
  - ・三校合同授業研究会の実施
  - 授業研究、講演会の実施

#### 実践研究部

- 道徳の時間と各教科等との関連的指導の工夫
  - ・道徳教育全体計画、別業、年間指導計画の作成と活用
  - ・「私（わたし）たちの道徳」の活用
  - ・和文化教育との関連

## 2 具体的な取組

### (1) 授業研究部

#### ア 取組の概要・成果と課題

##### (ア) 3校共通の「授業づくりの視点」について

三校合同研究主題「主体的に判断・行動し、他者とよりよく生きようとする児童生徒の育成」の具現化に向け、目指す授業像を「児童生徒が主体的に考え、議論する道徳の授業」と設定し、道徳の授業を実践してきた。授業研究部では「どういう型の授業をすればいいか」ではなく、「どういう視点を働かせて授業をつくるか」に着目した。実際の道徳の授業では、次の3点を「道徳の授業づくりの視点」として授業構想を立て、実践を積み重ね、ポイントとなる事柄を見出し、3校で共有してきた。

・ねらいの明確化      ・発問の吟味      ・自己の振り返りの充実

##### (イ) 六合中学校区三校合同授業研究会について

研究指定を受けたことを機に、3校の全職員が道徳教育についての考えを深めるために「三校合同授業研究会」の場を設けてきた。各校が年に一度会場校となり、年3回行った。授業研究会は、全体会、授業参観、グループ協議、講師の講話などの内容で行った。

##### (ウ) 成果と課題

○授業づくりの視点として「児童生徒が主体的に考え、議論する道徳の授業」に向け、実践を重ね、三つの視点におけるポイントをシートに追記してきた。「授業づくりの視点」をもとに柔軟に、授業構想をたてる手がかりとすることができた。

- ・実践から授業を見直し、捉えた課題を補足し、成果としてシートを発展させていくことができた。
- ・各校とも校内体制として研修の日常化が図られ、授業づくりの三つの視点を中心に職員間で意見が交わされた。

○三校合同授業研究会では、一つの授業について3校の教員でグループ協議し、同じ講話を聴くことを通して、成果と課題を共通理解することができた。積み重ねと今後の方向性について整理され、研究を深化させていくことにつながった。

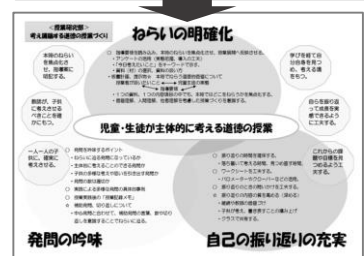
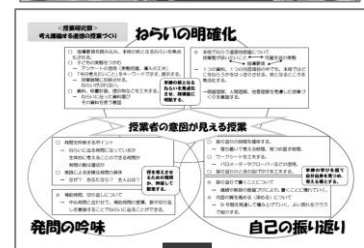
- ・道徳授業の参観は、小中学校全職員が同じ土俵で参観、協議することが可能であり、参観者が自分の授業を振り返る好機となった。

- ・児童生徒の発達段階における思考の深まりが授業場面に表れ、9か年の成長を感じ取ることができた。

- ・学習指導要領に示されている内容項目について、小学校から中学校への発展性や連続性を具体的に考える機会となった。

▲「児童生徒が主体的に考え、議論する道徳の授業」に向け、今後も、様々な内容項目において、質の高い多様な指導方法の工夫を取り入れて実践を積み重ね、授業改善を図っていく必要がある。

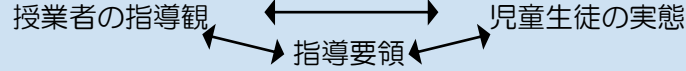
▲道徳の授業を通して、六合地区三校の小中連携を継続して深めていくことができるよう、教育課程に反映させていきたい。



< 授業研究部 >  
「授業づくり」の視点

# ねらいの明確化

○本時の指導の意図を明確にし、授業構想へ反映させる。



- ・資料、内容項目の中でも、本時で考えさせたいことを焦点化する。
  - ・道徳的諸価値の理解（価値理解、人間理解、他者理解）のもとに、何を考えさせるのか意識する。
  - ・「自己を見つめる」「多面的・多角的に考える」「自己の生き方についての考えを深める」の要素を取り入れた授業を構想する。
  - ・内面と行為を融合させて、子供に具体的に考えさせる。
  - ・授業構想（発問や手立て）を整理し、質の高い多様な指導方法を工夫する。
- ※読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習、問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習、等の要素を取り入れる。

三校合同研究主題「主体的に判断・行動し、他者とよりよく生きようとする児童生徒の育成」に向け、「児童生徒が主体的に考え、議論する道徳の授業」を実践する。

## 児童生徒が主体的に考え、議論する道徳の授業

○発問を吟味するポイント

- ・子供の多様な考えや思いを引き出す。
  - ・子供自らが道徳的な問題を見付けたり、道徳的価値を見出したりできるようにする。
  - ・子供が自我関与しながら考えられるようにする。
  - ・対話を充実させ、多面的・多角的に考えられるようにする。
  - ・問題の解決に向けて議論を深められるようにする。
- 思考を深める発問の効果を高めるために
- ・補助発問、切り返しにより、ねらいに深く迫る。
  - ・子供の側にたち、発問の内容、言葉、タイミングなどを考慮する。
  - ・子供を捉える感度を高め、子供の思考を深める。

○「自己の振り返り」における問い掛けの工夫

- ・自分の変容、今後の自分、自分の言動を想起、自分の内面を見つめる、道徳的諸価値の理解の深まり、等
- 「自己の振り返り」の効果を高めるために
- ・ワークシートを工夫する。
  - ・振り返りの時間を確保する。
  - ・振り返りの内容の質を高める（深める）
  - ・振り返りの継続や教師の価値付けを意識する。
  - ・積み重ねにより、子供が自ら考え表現することを習慣化していく。
  - ・中長期間で子供が自分の「自己の振り返り」を読み返し、成長を実感できるようにする。

## 発問の吟味

## 自己の振り返りの充実

これまでの道徳の授業では、価値の押しつけや心情理解に終始するなどの形式化・形骸化が課題とされてきた。そこで、授業研究部では、「児童生徒が主体的に考える道徳の授業」の具現化をめざし、『ねらいの明確化』『発問の吟味』『自己の振り返りの充実』の3つの視点を中心に授業改善に取り組んだ。これまでの実践・成果をもとに、見えてきた3つの視点とその具体をまとめたものが『「道徳の授業づくり」の視点』（上図）である。これを活かして授業実践をし、事後研修において検証、そして、加除修正や追記をし、今に至る。

## (7) ねらいの明確化

ここでいう「ねらいの明確化」は「授業案中の『本時のねらい』を明確にすること」ではなく、「授業者が本時において何を考えさせたいのか、指導の意図を明確に持ち、その意図が授業構想（指導観、教材、指導過程、板書、ワークシート等）に反映され、授業の中でもそれらが常に意識されていること」と捉え、道徳の授業づくりを行ってきた。

以下が「ねらいの明確化」について六合地区が取り組んできた内容例である。

### ○教師の指導の意図を明確に持つ

第5年1組 道徳学習授業案

1 日時 平成29年 6月22日(木) 第5校時  
 2 主題名 きまりは何のため 【C 規則の尊重】  
 3 資料名 「シンガポールの思い出」(出典:文溪堂「5年生の道徳」)  
 4 主題設定の理由(指導観)

(1) ねらいとする道徳的諸価値について(価値観)  
 本主題は、学習指導要領の内容項目【規則の尊重】の「法やきまりの意義を理解した上で進んでそれらを守り、自他の権利を大切に、義務を果たすこと」に関する内容である。児童が成長することは、同時に所属する集団や社会を構成する一員として集団や社会の様々な規範を身に付けていくことでもある。そのためにも、約束や法、きまりを進んで守ることができるようにすることが必要である。  
 また、高学年においては、現行指導要領「法やきまりを守り」が新指導要領において「法やきまりの意義を理解した上で進んで守り」と改定されている。この「法やきまりの意義」を、「皆の願いや思いを大切に、皆の安全に安心して生活していくためのもの」と捉え、それを児童が理解することで、単に守ればよいのではなく、主体的に判断し、守ろうとする態度が育つと考え、本主題を設定した。

(2) 児童の実態について(児童観)  
 本学級の児童は素直で、物事に真面目に取り組もうすると児童が多い。第1ステージでは、「ルールを守ろう マナーを考えよう」という合言葉のもと、学校生活でみんなが気持ちよく生活するにはどうしたらよいか考えたり、日々の生活の中でなぜ今のように行動しなくてはならないのかを確認したりしてきた。帰りの会で「きりり(友達の良いところ探し)」では、個人的にもらったことでなく、皆が気持ちよく生活できるように行動をしていた友達の姿が紹介されることが増え、自分たちの生活を自分たちでよりよくすることの良さを感じ始めている。  
 しかしながら、個々の姿を見ていくと、きまりがあっても、場面が変わると対応できなかったり、きまりを守らなくてはならないと知りつつ、いい加減になってしまったりしているのが現状である。また、できないならば罰を与えればよいと、その場できまりが守られさえすればよいと考えている児童も存在し、きまり=取り締まり、の感覚もある。きまりは、何のためにあるのかきまりの意義についてじっくり考えさせることで、それを守ることがよりよい生活につながることに気づかせていきたい。

(3) 教材について(教材観)  
 本資料では、シンガポールが細かいきまりと罰金によってきれいな町を守っていることを取り上げている。展開では、きまりがあれば生活はよくなるのか問うことで、「守らない人がいるから」「自分勝手な人を出さない」といった取り締まりの思考から、守ることでみんなが気持ちよく過ごせるという考えに発展させていきたい。また、展開後段においては、自分の生活を見つめさせることによって、自分自身の問題として捉え、これからの自己の生き方を考えさせていきたい。

5 他の教育活動との関連

道徳の時間  
「委員会じまん」  
「うばわれた自由」

本時  
「シンガポールの思い出」  
【C 規則の尊重】

日々の活動  
・今日のきりり(帰りの会)  
・月の取り組み

生徒指導 第1ステージ  
ルールで動こう  
マナーを考えよう

学級活動  
「どうすればあいさつが増えるか」

・「学習指導要領」「児童生徒の実態」「授業者の指導観」の三つをもとに本時で子供たちに何をどこまで考えさせたいのか(ねらい)を明確にした。

・ねらいとする価値における実態調査をしたり、これまでの指導や今後の計画を考慮したりしながら、さらにねらいを明確にした。

・ねらいとなる道徳的諸価値についての理解(価値理解、人間理解、他者理解)のもと、何を考えさせるか明確にした。

・ねらい、発達段階を考慮し、教材を選定した。また、教材内に価値が混在しているため、本時で考えさせたいことをどのように扱い、焦点化するか考えた。

※具体的な授業構想や指導の工夫については、P10を参照

### 【考察】

- ・実態把握や教師の願いがなくては、児童生徒の考えを深めることは難しい。発達段階、学級の実態、教師の願いが合致して初めて、ねらいが焦点化され、学びが深まることが分かってきた。
- ・手立てを工夫してきたが、その工夫が授業を複雑にすることもあり、かえって混乱し、深まらない場合があった。ねらいに向けて授業を構成する一つ一つの要素の整合性を図るとともに、限られた授業時間の中で時間配分にも教師の意図を反映させ、内容の精選を行っていく必要がある。
- ・小中の連携により、内容項目における系統的なつながりを意識しやすく、実践や実態からねらいをより明確にし、段階をおった指導が積み重ねられるようになってきた。



#### (イ) 発問の吟味

ねらいとする子供の姿を実現するために、発問の吟味を行ってきた。「多面的・多角的に考えること」や「子供自らが道徳的な問題や価値を見出すこと」「自分との関わりで道徳的価値を理解すること」などを意識しながら発問を設定してきた。また、発問の構成では、ねらいに迫る中心的な発問を設定し、次にその前後の発問を考えるようにしてきた。

以下に、これまで3校で実践してきた発問の例を、「登場人物への自我関与を促すような発問」、「様々な諸問題を道徳的に判断し、解決策を考えるような発問」、「体験的な活動を取り入れて、考えるような発問」の三つに分類し、整理した。

	登場人物への自我関与を促すような発問	様々な諸問題を道徳的に判断し、解決策を考えるような発問	体験的な活動を取り入れて、考えるような発問
小学校 低学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・残されたボールはどんな気持ちでしょう。</li> <li>・穴を掘っているときに、かにさんは、どんなことを考えただろう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どうしてこういう言葉が大切なのかな。</li> <li>・あなたなら、拾った百円をどうしますか。</li> <li>・みんなにとって友達ってなんだろう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・堅い岩の上で歯を食いしばっているとき、ポポはどんな気持ちだったでしょう。</li> </ul>
小学校 中学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プリマをやりたいのに、なぜともこは回転のコツを教えたのだろうか。</li> <li>・病気になって悩んだ長谷川選手は、どんなことを考えたのだろうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分だったら、どんな方法でけんたを助けられますか。</li> <li>・命をかけて村を救った五郎右衛門さんについてどんなことを思いますか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつの良さって何だろう。</li> <li>・お母さんからの請求書はいくらだったでしょう。</li> </ul>
小学校 高学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どうして手塚はマンガ家になることを決めたのだろう。</li> <li>・「ぼく」はどうしてすぐに手伝わなかったのだろう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・太一のやっていることはいじめなんだろうか。</li> <li>・閉館後にやってきた母娘を美術館の中に入れるか、あなたならどうしますか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・美しいものを見たり、聴いたりして感動したことがありますか。</li> <li>・江戸しぐさの共通点を見つけよう。</li> </ul>
中学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「今を生きている」という言葉に込められた筆者の思いを考えよう。</li> <li>・杉原さんはどんな思いで、ビザを書き続けたのだろう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガンであることを父に告知するほうがいいのか、しないほうがいいのか。</li> <li>・あなたがキャストならどうしますか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「そういうのは女である母親の仕事だよ。」という兄の言葉に、主人公、母はそれぞれどのように思うのか。</li> </ul>

## ○補助発問について

議論の視点を明確にして、子供の思考を深めたり、多面的・多角的な考え方を促したりするために、補助発問を大切にしてきた。補助発問を効果的なものにするために、子供の思考を予想し、それに沿った発問を意識してきた。特に「どうしてそう思いましたか」「そうしたら、どうなると思いますか」「自分も同じような経験はなかったかな」「自分がそうされてもよいか」「いつ、どこで、誰にでもそうしますか」などの発問により、子供の考えを深めてきた。

## ○授業記録メモについて

授業後に授業者は、授業記録メモを使って、ねらいや発問、子供の表れを振り返りながら、授業構想や教材の評価を行った。これらを積み上げていくことで、授業の質を高めることができた。また、年間指導計画を立てる時にも活用することができた。メモの記録を通して、教員間で積極的に、授業の成果と課題を話し合ったり、より適した教材を探したりする姿が増えてきた。

## 道徳授業記録メモ 六 合 中

2 年

実施日	記録者	内容 項目	ねらい	資料名 【出典】	資料 評価	発問の例 (◎主発問○補助発問)	○成果 ▲課題 (生徒の実態、扱う時期など)
4/26 (水)		A-(2) 節度 節制	返事の意義を理解し、 好ましい生活習慣を身に つくり態度を養う。	返事 【「心ゆたかに」2年】	A B C	○司会の松尾さんが川原さんに好して した厳しい態度はどう思いますか。 ◎川原さんはなぜ今日は明返事をしなかったの か。 ○みんなの生活を振り返ろう。 □返事もし、かきまわすことの意味とは 何だと思えますか。	○多くの生徒が発言した。 ○他者理解、人間理解を通してより深い 価値理解へとつながった。 ○生徒が自分の生活を振り返ることで、自分 ごととしてとらえられた。 ▲自分の生活を振り返る際に、もともと音に できる文脈ができてより深まった。
5/2 (火)		C-(12) 社会参画 公民の精神	社会の一員としての自覚を 深め、公德心をもち、より よい社会の実現に努める 心情を育てる。	一屋建立 【「心ゆたかに」2年】	A B C	○塀の上に空気がある理由を聞か れて、義雄はどんなことを考えたのか。 ○騒ぎ出した兄妹を注意する青年を見て 義雄はどう思ったのか。 ◎真剣に青年に問い詰められた義雄の心は どんな思いか。 □身の周りに同じような出来事はあったら どうか。	○身の周りについて見逃してしまう勝ち負け 争いについて振り返ることができた。 ○義雄の気持ちも考えることが通じて、 正しいことも主張する難しさも大切さ も考えることができた。 ▲もしも生徒自身も振り返らせた。
5/9 (火)		A-(1) 自己自律 自由責任	自分本位の判断や行動の 問題を追究し、自らの生活を 見直し、高めていく態度を養う。	「最近の僕を振り返り」 【「心ゆたかに」2年】	A B C	○最近の僕の様子はどうだろうか。 ○僕はなぜやる気がないのか。 ◎幼い女の子が泣き出した時、僕は どんな気持ちだったのだろうか。 ○今の自分の生活を振り返って、改善 すべきことを考えよう。 □誰からの自分を奮めていくために、 大切なことはどんなことだろうか。	○自分の現在の生活と昔の自分と あり、振り返る機会と持った。 ○自分本位の判断や行動が、他者に及ぼ す影響などの理解につながった。 ▲自分を高めていくためには、表面のこと だけでなく、心の中もよく見直し ていく。
5/3 (火)		B-(7) 礼儀	心の表れある礼儀の意義 を理解し、時と場合に応じた お礼のかけ方を態度を養う。	「人と人とあれあれ」 【「心ゆたかに」2年】	A B C	○お礼のしるしはいつかお礼を お返しする気がないのか。 ○お礼のしるしはいつかお礼を お返しする気がないのか。 ◎お礼のしるしはいつかお礼を お返しする気がないのか。 ○お礼のしるしはいつかお礼を お返しする気がないのか。 □お礼のしるしはいつかお礼を お返しする気がないのか。	○お礼のしるしはいつかお礼を お返しする気がないのか。 ○お礼のしるしはいつかお礼を お返しする気がないのか。 ○お礼のしるしはいつかお礼を お返しする気がないのか。 ○お礼のしるしはいつかお礼を お返しする気がないのか。 ○お礼のしるしはいつかお礼を お返しする気がないのか。

### 【考察】

- ・考え、議論する道徳を目指し、様々な発問を考えることで、自我関与が中心の授業だけでなく、問題解決的な学習や体験的な学習を通して考える授業が増えてきた。
- ・発達段階に応じて、扱う内容に違いが見られた。小学校低・中学年では、道徳的な価値を理解する学習が多く、学年が上がるにつれて人間理解や他者理解について考える学習が実践できるようになってきた。
- ・一方的な見方だけでなく、様々な立場や視点から考えられるような発問を設定することで、子供たちの思考を深めることができた。しかし、子供が発問の内容を捉え、考える視点や立場、状況を明確に理解できるようにすることを心掛けなければならない。





## ウ 授業案について

授業案は、3校で書き方をそろえ、授業過程を共通理解したことで、同じ視点でお互いの授業を見合うことができ、事後研でも活発に意見が交わされた。また、平成28年度の授業案にはなかった「◎発問の意図」を記入することで、授業者の意図が明確になり、授業者自身も発問をより吟味することができた。

段階	学習活動（主な発問と予想される反応）	◎発問の意図 ・留意点 ☆評価
導入	<div style="border: 1px dashed black; padding: 10px;"> <p>今日考えたいこと・ねらい ← 子供に伝える言葉で            例：「友達としてふさわしい行動」について考えよう。            友達がいて良かったなと思うのは、どんなとき？            本時のねらいとする道徳的価値への方向付け</p> </div>	<p><b>導入での工夫と手立て</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>資料の場面について興味を持たせる。</li> <li>アンケートで問題意識を持たせる。</li> <li>今までの経験を想起させる。</li> <li>価値について問う。（思いやりってどういうことなの？）</li> </ul>
展開	<p>教材提示            多様な指導法を意識する。（自我関与が中心、問題解決的、体験的な学習）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>中心発問            （例：友達としてふさわしい「助ける」とは、どういうことなんだろう）            （例：あなたが〇〇くんだったら、行く？行かない？）</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>多様な思いや考えを引き出す発問</li> <li>子供自らが道徳的な問題を見付けたり、道徳的価値を見い出したりする発問</li> <li>自我関与しながら考えることができる発問</li> <li>多面的・多角的に考えることのできる発問</li> <li>議論を深められる発問</li> </ul> </div>	<p><b>教材提示の工夫と手立て</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教師が範読する。</li> <li>挿絵やキーワードを提示する。</li> <li>絵本、VTRを活用する。</li> <li>資料を分割して提示する。</li> </ul> <p>◎発問の意図（どうしてこの主発問にしたのか、授業者の思いを書く）            （例：どうすることが本当に友達を「助ける」ことになるのか、何をもって「助ける」というのかを考えさせたい）</p> <p><b>展開での工夫と手立て</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>板書で考えを整理する。</li> <li>付箋やワークシートの工夫で多様な考えを引き出す。</li> <li>ペア・グループ・学級での話し合いなど、対話的な活動を取り入れる。</li> </ul>
終末	<div style="text-align: center; margin-bottom: 10px;"> <p>終末：振り返り</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p>振り返り ← 子供の言葉で            （例：相手が後でつらい思いをしたり困ったりすることがないように、悪いことは悪いとはっきり伝えられるのも友達だと気付いた。            友達に「悪いことだよ」と伝えるのは、やっぱりむずかしいけど、他の友達に相談するのならできそうだな。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習を通して考えたことや新たに分かったことを確かめる。</li> <li>学んだことを深く心にとどめる。</li> <li>これからへの思いや課題について考える。</li> </ul> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様な指導方法（自我関与、問題解決的学習、体験的な学習）を取り入れる。</li> <li>ねらいとする価値に迫るための「切り返し」を教師が用意しておく。</li> </ul> <p><b>振り返りでの工夫と手立て</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>振り返りの時間を確保する。</li> <li>ワークシートの工夫をする。</li> <li>問い掛けの工夫をする。</li> <li>場面を広げ、具体的に考える工夫する。</li> <li>教師が価値付けする。</li> </ul> <p>☆この1時間の授業を振り返っての評価内容（方法）を書く。（学習指導要領小学校P106 中学校P109「3道徳科の授業に対する評価」を参考にする。</p>

## エ 授業実践例

### 【小学校 第1学年】

良いことと悪いことを区別し、良いと思うことを進んで行う態度を育てること【A 善悪の判断】をねらいとして授業を実践した。楽しそうだけど危険な「ひみつきち」に行くか、行かないかを、ネームプレートを置き、考えを明確にしたことで、理由を自分事として考えることができた。また、様々な場面を例示することで、生活場面を広げて考えることができた。

段階	○教師の発問 ・予想される児童のあらわれ ◎振り返り	形態	*留意点 ◆支援 ☆評価
導入	1 「ひみつきち」と聞き、どんなことを想像するか発表する。 2 「ひみつきち」の資料を読んで話し合う。	全	
前段	○「一緒に遊ぶ約束をしていました」この時、ぼんたは、秘密基地に「行く」「行かない」の気持ちをどのくらいもっていたらうか。 3 資料の続きを読み聞かせる。 ○「一人になったぼんたは、じっと考えていました」この時、ぼんたは、秘密基地に「行く」「行かない」の気持ちをどのくらいもっていたらうか。 4 資料の続きを読み聞かせる。		*心のものさしを板書。ぼんたがどの程度、秘密基地に「行く」気持ち、「行かない」気持ちをもっているのか想像させる。自分の考えを決め、ネームプレートをはらせる。理由も聞く。
2分	ぼんたは、ひみつきちに行きたい気持ちをもっているのに、なぜ行かないと決めたのだろうか。		◆心のものさしの見方についてきちんと理解できるように置き方を示唆し、どの子も、意思決定できるようにする。
	【自律】 ・裏山に行ったら危ない。 ・けがをするかも ・迷子になるかも ・行ったらオオカミが… ・家の人が心配するから		*教師がかんた役で子どもにぼんた役を役割演技させる中で、ぼんたが迷いながらも行かないと言った理由を考えさせる。
	【他律】 ・行ってはいけないと言われてるから ・家の人に怒られるから		◆書くのが苦手な F.T には、理由まで求めず、誘いにのるかのらないか意思決定するよう助言する。
後段	5 資料の続きを読み聞かせる。 ○仲のよい友達でも、「だめなことはだめ」と言えたぼんたをみんなは、どう思いますか？ ・自分の考えをはっきり言えて立派だと思う。 ・友達でも嫌なことは嫌といえるのはすごい。勇気がある。		*ワークシートは、A～Cの中から各自記入できそうな内容を選択させ、理由まで記入するように助言する。
2分	○自分が、仲のよい友達に次のような言葉で誘われたら？ A 「裏道を通って、近道してかえろうよ」 ・変な人に会うと危ないから、行かない。 B 「花火を子どもだけで一緒に遊ばない？」 ・大人がいないとやけどするといけないから、やらない。 C 「駐車場でかくれんぼしようよ」 ・車にひかれたくないから、やらない。	個	*よいと思うことを進んで行動した子どもの紹介をする。
5分	6 ◎自分自身を見つめる。 ○友達に「だめなことはだめ」と注意したことがあるか？ 言ったことがある人は、それはどんな時か？理由は？ ・廊下は走ってはいけないから、だめだよと注意した。 ・掃除は黙ってやらないといけないのに、友達が話をしていたので、ダメだよと注意した。 ・プールに石を投げている人がいるから、いけないと思って、注意はできなかったけど、先生に伝えた。 ・ちくちく言葉を言っている人がいたので、注意した。	全	*記入内容を発表させる。 ☆よいことと悪いことの区別をし、よいと思うことを考えることができたか。 (ワークシート・発表) *ワークシートに各自、記入する。
終末		個	

**ねらいの明確化**

- ・ネームプレートを置くことで、自分の立場を明らかにし、ねらいに迫る話し合いのきっかけとなるよう工夫した。
- ・「こころのものさし」を使い、ぼんたの気持ちを自分事として考えるようにした。

**発問の吟味**

- ・「なぜ」と聞き、主人公の行動を客観的に考えることで、多面的・多角的に考えることができるようにした。

**ねらいの明確化**

- ・教材を前半・後半に分け主人公の気持ちに深く自我関与させ、ねらいに迫ることができるよう構成した。

**ねらいの明確化**

- ・他の生活場面に広げることを意図し、様々な場面を例示し、スキルを身に付ける学習を取り入れた。

**自己の振り返りの充実**

- ・振り返りの時間を確保し、今までの自分の友達との関わり方を見つめ、考える振り返りとした。



ネームプレートを貼る子供たち



板書

【小学校 第4学年】

相手の気持ちを考えて、親切にしようとする態度を育てること【B 親切・思いやり】をねらいとし、授業を実践した。事前にアンケートをとり、「親切・思いやり」に対する子供たちの認識や経験を把握した。その上で、多面的・多角的に考え、ねらいについて深く考えられるように2時間扱い（第1時：「駅での出来事」、第2時：「心と心のあく手」）で授業を構成した。振り返りでは、自分自身を見つめ、自分の価値に対する深まりや広がりを実感することができた。

階	学習活動 ○教師の発問 ・予想される児童の表れ ◎振り返り	種	*留意点 ◆支援 ☆評価
導入 (3分)	1 前時について振り返る。 2 資料を読み聞かせを聞き、話し合う。 ○「おばあさんに何ができるだろう」と考えたあと、ぼくがそつとおばあさんの後について歩いたのは、なぜだろう。	全体	*おばあさんは「大変でも歩く」ことで「歩けるようになる」ということを押さえる。
展開前段 (25分)	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・おばあさんが心配だから。 ・放っておけないから。 ・お礼を言われなくても、自分が安心したいから。</p> <p><b>何かをしてあげたい 放っておけないという気持ち</b></p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・おばあさんの頑張りを邪魔したくないから。 <b>相手の気持ちを考えて。</b></p> </div> </div> <p>何をしたらいいか、何をしたらいいかという気持ち</p>	全体	◆「帰ればいいのに。」「お母さんと約束があるんだよね。」「おばあさんは、見守ってくれていることは知らないよ。」「おばあさんにお礼言ってもらえないよ。」「荷物を持ってあげなくていいの？」など、の補助発問で揺さぶる。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>本当の親切をするためには、どうすることが大切だと思いますか。</p> </div> <p>・人の気持ちがわかって、その気持ちに合わせて行動すること。 ・優しい気持ちを持ち続けること。・勇気を出して行動すること。 ・お礼を言われなくても、優しくできること。</p>	個別 グループ 全体	*付箋に書いたものを、グループで出し合い、交流する。 ◆M.Rには横について声を掛け、集中して取り組めるようにする。
後段 (17分)	3 自分自身を見つめる。 ○あなたの本当の親切度はどのくらいですか。心のバロメーターを塗りましょう。それはなぜですか。今日の授業を受けて、「本当の親切」についてどのようなことを思いましたか。 ・ぼくの親切度は、ハート3つ。なぜかという、ぼくはあんまり相手の気持ちを考えていなかったと思うからです。ぼくは、相手の気持ちを考えて、親切にすることは大切なことだなあ、と思いました。 ・○さんの「」という考えに、なるほどと思いました。 ・なかなかできないこともあるけど、これからは、相手の気持ちを考えて行動できる人になりたいと思いました。	個別	*付箋は、ワークシートに貼る。 *自分がこれまでしてきた親切についての書き込みを振り返る。 ☆「本当の親切」とは、「相手の気持ちを考える」ことが大切であると気づき、相手の気持ちを考えて親切にしようとする心情を養う。(ワークシート)

**ねらいの明確化**

- ・前時で考えた「親切」について振り返ることで、今の自分の価値に対する考えを明確にし、価値に対する自分の変容に気付くことを意図して発問を工夫した。

**発問の吟味**

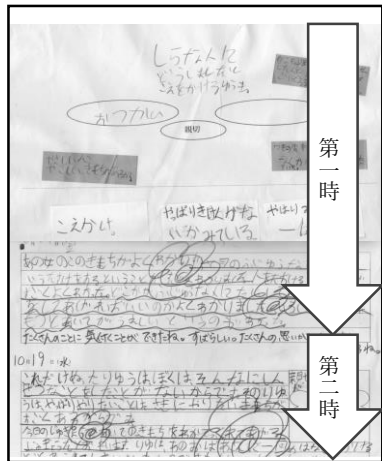
- ・「本当の親切」について問うことで、「親切」という行為を客観的にとらえ、多面的な見方ができることを意図した。

**ねらいの明確化**

- ・お互いの考えを認め合い、深く考えられるようにするため、付箋に自分の考えを書いてから、グループで話し合う手立てをとった。

**自己の振り返りの充実**

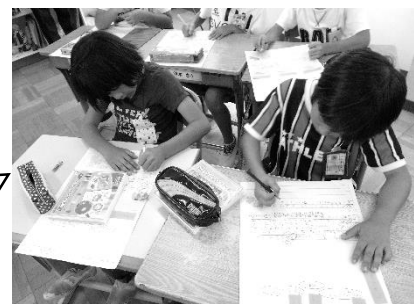
- ・今までの自分の姿を考える手立てとして、「心のバロメーター」を塗ってから、理由を問うこととした。
- ・自分の変容に気付くことができるよう、ワークシートを2時間続きにする工夫をした。



2時間続きのワークシート



付箋に書いたことをもとに、話し合いをする子供たち



第1時と第2時の「親切」に対する考えを比べながら、振り返りを書く子供たち

【小学校 第6学年】

相手の気持ちを大切にしたり、自分の考えをはっきり伝えたりすることで、お互いを理解しながら、よりよい人間関係を築こうとする心情を育てることをねらいとし、授業を実践した。

本時は【B 友情、信頼】の内容であるが、同時に【B 親切、思いやり】【B 相互理解、寛容】などの内容項目も絡んでくる。それらの価値も認めつつも、「よりよい友達関係を築く」というねらいを板書や発問、切り返しに反映させたことで、子供たちの思考もねらいについて深まっていた。

映像教材は、子供の思考とねらいの両方を考慮し、必要な部分を活用することにより、短時間での内容理解と時間確保につながった。

段階	学習活動（主な発問と予想される反応）	◎発問の意図・留意点◆支援☆評価						
導入	<p>○「友情」って何だろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仲がいいこと。 ・分かり合えること。</li> <li>・何でも話せること。 ・許してあげること。</li> </ul> <p>「友情を深める」ということについて考えよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「友情」についてのイメージを事前に書かせ、自由に出させてから、価値の方向付けをする。</li> <li>・表面上の友情よりも、もう少し深いところを考えてみようという方向付けをする。</li> </ul>						
展開	<p>資料「こまったプレゼント」を見る。（シーン2～4）</p> <p>○迷っているゴジマくんの心の中を想像してみよう。</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>&lt;飾る&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・せっかくもらったから。</li> <li>・自分のためにくれたから。</li> </ul> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>&lt;飾らない&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・雰囲気に合わないから。</li> <li>・客が来なくなるから。</li> </ul> </td> </tr> </table> <p>○あなたがゴジマ君ならどうしますか。</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>&lt;店先に飾る&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スズキくんが自分のために用意してくれたのがうれしいから店先に飾る。</li> </ul> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>&lt;別の場所に飾る&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・うれしいけど、お店の雰囲気に似合わないから、店先ではなく、少し奥の方に飾る。</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>&lt;後から飾る&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今はお店やお客様が大切な時。お店が順調にスタートできてから飾る。</li> </ul> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>&lt;飾らない&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・やっと開店できた自分のお店だから、雰囲気に合わないものは飾れない。</li> </ul> </td> </tr> </table> <p>「友情を深める」ためにはどうしたらいいだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初めは飾れないと思ったけど、スズキくんの思いもうれいから、何か他の方法を考えるのもありだと思った。</li> <li>・スズキくんの気持ちはうれしいんだけど、やっぱり自分の気持ちとは違うから、ごめんね、って言うてみようかなあ</li> <li>・相手の思いも考えつつ、自分の考えをしっかりと伝えることも大事なんじゃないかなあ。</li> </ul>	<p>&lt;飾る&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・せっかくもらったから。</li> <li>・自分のためにくれたから。</li> </ul>	<p>&lt;飾らない&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・雰囲気に合わないから。</li> <li>・客が来なくなるから。</li> </ul>	<p>&lt;店先に飾る&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スズキくんが自分のために用意してくれたのがうれしいから店先に飾る。</li> </ul>	<p>&lt;別の場所に飾る&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・うれしいけど、お店の雰囲気に似合わないから、店先ではなく、少し奥の方に飾る。</li> </ul>	<p>&lt;後から飾る&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今はお店やお客様が大切な時。お店が順調にスタートできてから飾る。</li> </ul>	<p>&lt;飾らない&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・やっと開店できた自分のお店だから、雰囲気に合わないものは飾れない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料VTRを視聴する。</li> <li>◎初めに全体で迷っている主人公の心境について両方の立場を確認し、共感させたい。</li> <li>◎主人公の迷いに触れながら自分の立場を示すことで、相手の気持ちに寄り添いながら判断したり行動したりことの大切さについて考えたい。</li> <li>・「飾らない」という立場に偏った場合は、資料VTRの後半（シーン7）を見せ、再度揺さぶりをかける。</li> <li>◎「友情を深める」ことについては、双方の立場が考えられるが、今回はゴジマくんの立場に立って考えさせたい。</li> <li>・「飾る」にもいろいろな立場があること、「飾らない」にも自分なりの根拠があること、また わかるんだけどできないかという人間理解の部分も認めていく。</li> <li>◆相手の思いがくみ取りにくいYHには、個別に声をかけ、複数の立場があることを確認する。</li> <li>・本時で感じたことをふまえることで、これからの意欲につなげたい。</li> <li>☆違う立場の相手の気持ちを大切にしたり、自分の考えをはっきり伝えたりしながら行動しようという気持ちをもてたか。（発言・ワークシート）</li> </ul>
<p>&lt;飾る&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・せっかくもらったから。</li> <li>・自分のためにくれたから。</li> </ul>	<p>&lt;飾らない&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・雰囲気に合わないから。</li> <li>・客が来なくなるから。</li> </ul>							
<p>&lt;店先に飾る&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スズキくんが自分のために用意してくれたのがうれしいから店先に飾る。</li> </ul>	<p>&lt;別の場所に飾る&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・うれしいけど、お店の雰囲気に似合わないから、店先ではなく、少し奥の方に飾る。</li> </ul>							
<p>&lt;後から飾る&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今はお店やお客様が大切な時。お店が順調にスタートできてから飾る。</li> </ul>	<p>&lt;飾らない&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・やっと開店できた自分のお店だから、雰囲気に合わないものは飾れない。</li> </ul>							
終末	<p>○みんなの意見を聞いて考えたりして、「友情を深める」ことについて今の自分を振り返ってみましょう。</p> <p>・自分のことを大切に思ってくれている友達がいるのはやっぱりうれしい。これからも仲良く生活するには、自分勝手にしないで、その人の思いも大事にしていこうと思う。</p> <p>・違う考えの時は、お互いに伝えあって相談するのもいいのかな、と思った。</p> <p>・相手の気持ちもわかるけど、自分には受けとめきれない時があるかもしれないな、と思った。</p>							

**ねらいの明確化**

- ・「友達との友情を守ろうとするあまり自分の気持ちを隠そうとする様子がある」という実態を捉え、授業を構想した。授業者の意図を本時のねらい、発問、板書、振り返りに反映させるようにした。
- ・映像教材は、本時のねらいに迫るために必要な部分のみを使用し、話し合いの時間を十分に確保した。

**発問の吟味**

- ・「飾る」「飾らない」の行為を問うだけでなく、そのもととなった心情を問うようにした。
- ・主発問では、「友情を深める」に焦点を当て、価値理解だけでなく、人間理解も含めて考えるようにした。

**自己の振り返りの充実**

- ・友達の見解を聞いて感じたことを踏まえながら、「友情を深めること」「今の自分は友情を深めていると言えるか」などについて自分の考えを書く場を設定した。



映像教材の活用



帽子の色で自分の考えを表現する



【小学校 特別支援学級】

困っている人や体の不自由な人に出会った時に、進んで親切にしていこうとする心情【B 親切・思いやり】を育てることをねらいとし、授業を実践した。目の不自由な人を見かけた時「自分だったら」と考えさせることで、自分事として考えることができた。また、障がいの特性を考慮し、絵や二者択一の提示、ICT機器などを活用し、わかりやすい資料や事例を用意したことが、状況の把握や価値の理解を深めることにつながった。

段階	学習活動（主な発問と予想される反応）	◎発問の意図・留意点◆支援☆評価
導入	○目を閉じて心を落ち着かせよう。 今日は相手を大切に思うことについて考えよう。	◎発問の意図・留意点◆支援☆評価 ・気持ちを整えるために1分間目を閉じる。
展開	1 資料の読み聞かせをする。（前半） ○目の不自由な人が出てきたね。どう思うかな。 ・かわいそう。 ・僕、知ってるよ。町で見たことがある。 ・杖で安全を確認しているんだよ。 ○主人公がもし自分であったら、あなたは どうしますか。 	◎発問の意図・留意点◆支援☆評価 ・登場人物のイラストを掲示し、話の場面をイメージする手助けをする。 ◎困っている人を助けようとする心情を抱かせ、声を掛けることができるのか葛藤させたい。 ・気持ちを揺さぶる発問をする。 ・気持ちのものさしを提示する。 ◆MR：発言の機会をつくり学習意欲を引き出す。 ◆NH：日常の具体的な例に置き換えて発問する。 ◎晴れ渡った主人公の気持ちを考えさせることを通して、親切にすることは自分自身の気分も良くなることに気付かせたい。
	2 資料の読み聞かせをする（後半） 目の不自由な人の笑顔を見た主人公は、どんなことを考えたかな。 ・うれしかったと思う。 ・声を掛けて良かったって、すっきりしたと思う。	
	3 ワークシートをもとに活動 ○こんな時、みんななら どうしますか。 ① 横断歩道でつまづいた1年生→・力を貸してあげる。 ② 荷物をたくさん持って階段を上る老人→・持ってあげる。 ③ 道路の縁石に挟まる車椅子の人→・力を貸してあげる。 ○今日話し合ったことの感想を書こう。 ・助けようって思う気持ちは大事だなあって思った。 ・これから困っている人を見たら助けよう。 ・できることは進んで親切にしていきたいなって思った。	・相手の事を考えているつぶやきや意見をとりあげて、親切にしていこうとする価値をおさえる。 ・横断歩道や階段、道路脇の縁石などで困っている人の画像を提示する。 ・ワークシートを配り行動する方法を記入させる。 ◆KA：二者択一の問い掛けをする。
終末	○みんなが思ったことを話し合っ て授業のテーマを決めよう。 ・ずばり、「親切」がいいよ。 ・「相手を思って」がいい。 ・「助ける気持ちは大事」 ○教師の話	☆困っている人の気持ちを考えて、親切にしていきたいことを発表したり感想に書いたりすることができる。 ・勇気をもって親切にして良かった経験談を話す。

**発問の吟味**  
・絵を示しながら問いかけたり、二者択一で質問をしたりすることで、発問の意味について児童が理解や考えを持つきっかけとなった。

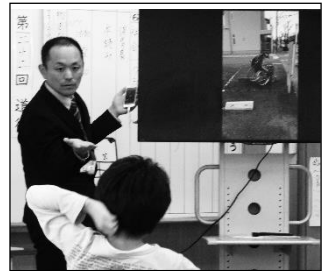
**ねらいの明確化**  
・「もし自分であったら」と自我関与をさせながら、価値理解・人間理解を深めた。  
・気持ちのものさしにより、人間理解、他者理解につながるよう板書を工夫した。

**ねらいの明確化**  
・児童の理解を助けるため、映像や写真、単純化された資料を活用した。

**自己の振り返りの充実**  
・一人一人が授業で学んだことをじっくり振り返るため、感想を書いたり、授業の終わりにテーマを決めたりした。

**気持ちのものさし**

**具体的な場面を想定**



ICT機器の活用

【中学校 第2学年】

礼儀の意義を理解し、「挨拶」を通して、相手の人格を認め、相手に対して敬意や感謝などの気持ちを具体的に表そうとする心情【B 礼儀】を養うことをねらいとし、授業を実践した。挨拶は心を込めて言うことが大切という意見や、その心を表現するために形を整えることも大切という意見が出され、相手の立場に立って、礼を尽くすことが礼儀であると考えを深めることができた。

段階	○活動、教師の働きかけ ・予想される生徒の反応	時間 形態	◎発問の意図 ・留意点 ☆評価
導入	○礼儀正しい挨拶ってどんな挨拶だろう。 ・相手を見てする。 ・語先後礼。 ・お礼状みたいなやつ。	5分 全体	・隣同士で、礼儀正しい挨拶をさせてみる。 ・範読が終わったら心ゆたかには閉じるよう指示する。
展開	資料範読 ○おじさんに挨拶されたとき、主人公はどんな気分になっただろうか。 ・嬉しい。 ・気分上々。 ・むしゃくしゃした気持ちがどこかへ行ってしまった。	5分 全体 10分 全体	
	○あいさつをしようか迷うことはありますか。 ・相手が知らない人や怖い人と迷う。 ・先輩とすれ違ったときに、相手からの挨拶を待つことがある。		◎挨拶をしなくてはいけないことはわかっているが、迷ったり出来なかったりする自分に気づかせたい。
	○挨拶をされないと嫌な気持ちになるのはなぜだろう。 ・先輩として見られていない感じがするから。 ・軽く扱われている感じがするから。		・挨拶は、相手を認めたり尊重したりする行為の一つであることを押さえる。
	「形だけの挨拶には値打ちなんかない」という先輩の投書に対して、あなたはどう思いますか。	5分 個	
	・先輩として尊敬されるように行動しようとする、この先輩はすごいと思う。 ・気持ちがこもっていないなら無意味だから、そんな挨拶なら価値もないと思う。 ・挨拶をしないのは失礼だから、形だけでもするべきだと思う。 ・挨拶はコミュニケーションの基本で、挨拶することで仲良くなれることもあるから、形だけでも価値はあると思う。	10分 全体	・挨拶をする側と、される側の気持ちも考えさせる。 ・必要であれば、「形だけの挨拶」がどんなものか押さえる。
	○「礼儀」について、自分の生活を振り返ってみよう。	5分 個	◎形だけでも気持ちだけでも十分ではないことを押さえたい。
	・形だけでも気持ちだけでもない挨拶をしたい。 ・相手に気持ちが伝わるような挨拶がいいと思った。 ・いままでは怒られるから挨拶するだけだったけど、これからは自分から挨拶したい。	10分 全体	☆自分の気持ちを伝えるという礼儀の意義を理解し、今後の生活で礼儀を意識して行動しようという気持ちを持てたか。
終末	○教師の説話 「親しき仲にも礼儀あり」など、昔からのことわざにもあるように、どんな人との関わりの中でも大切なのが礼儀であり、きちんと礼儀を尽くすことが相手を尊重し、良い関係を作ることにつながる。		

**ねらいの明確化**

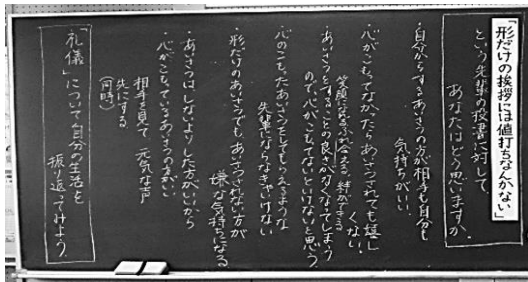
- ・礼儀について、「心と形が一体となることに価値がある」ことを、理解することが重要であると考へ授業構想をした。
- ・礼儀の価値を理解し、その上で具体的に形で表していこうとする心情を養うことをねらいとした。

**発問の吟味**

- ・「あなたはどう思う？」という発問をすることで、「自分だったらどのような挨拶をするか」または、「挨拶してもらいたいか」を考える問題解決的な学習をした。
- ・「気持ちが大切」という意見に、「気持ちは、どうやって表せばいいのか」と切り返すことで、形の大切さについて考えるきっかけとした。

**振り返りの充実**

- ・自分の生活を振り返りながら、礼儀についての考えを深め、生き方について考える振り返りとした。




生徒の振り返り

あいさつがテーマの内容で、私は形だけのあいさつは絶対だと思いたけど、形も大切にすることの意味がある大事な意見を知って、確かによく考えたら、それこそだと思えた。

【中学校 特別支援学級】

仕事を誠実に行うことで得られる達成感や充実感に気付き、家庭や学校で積極的に働こうとする道徳的実践意欲を育む【C 勤労】をねらいとし、体験学習で行った「お茶摘み」と関連付けながら、読み物教材の登場人物への自我関与を中心に授業を実践した。登場人物の心情を考える時に、表情イラストを選び、選んだ理由を書くようにすることで、生徒は自分の思いを伝えやすくなった。

段階	○活動、教師の働きかけ ・予想される生徒の反応	時間 形態	◎発問の意図 ・留意点 ☆評価
導入	○先日行ったお茶摘み体験の動画とお茶農家の方の動画と比べて、お茶農家の方はどのように摘んでいますか？ ・自分たちはゆっくりだ。だからしてる。 ・農家の方はしっかり摘んでいる。	5分 全体	◎お茶農家としての働く様子を見て、「働くとは」ということに目を向けさせる。
展開	資料範読 ○「明日、手伝ってねー。」と母が言ったとき、私はどう思いましたか。 ・せっかくの休みなのに。めんどくさい。 ・手伝うって言っていないのに。 ・手伝いのは嫌だな。お金くれるかな。  「終わった。」と思わず大きな声を出してしまった 私は、どんな気持ちだっただろうか。	5分 全体	◎手伝わないといけないと思っても正直、嫌だなどという思いを発言させる。 ・お金に関する意見が出たら、最後にお金だけでなく達成感ややりがい将来の仕事を考えるときに大切であることに触れる。
	○まず、表情イラストから終わったときの表情がどれか選ぼう。 ○終わってこのような表情の主人公はどんな気持ちだろうか。  <ul style="list-style-type: none"> <li>・壊れたおもちゃみたいに体がぼろぼろ。</li> <li>・手が痛い。</li> <li>・やったー。 ・うれしい。 ・最後まで頑張った。</li> <li>・一生懸命に取り組むことができた。</li> <li>・やりとおすことができて、気分がいい。</li> <li>・達成感、やりがい、楽になった、役に立てた。</li> </ul>	3分 全体 10分 全体	◎喜怒哀楽の3つの表情イラストから主人公の表情を選ばせてから、終わったと言った主人公の気持ちを考えさせる。 ・認めながら私の心の変容に気付かせる。
	○このような表情の主人公を見ておじいさんはどう思っただろう。 ・頑張ったな。 ・家族の一員として一生懸命に働いてくれて、助かるな。	17分 全体	◎主人公のお茶摘みの働きはおじいさんのため、家族のためになっていること気付かせる。
終末	○今後、学校（掃除や教科係、専門委員会、係の仕事）や家の仕事をやる時、どのように取り組もうと思いますか。  ・仕事を忘れないように取り組みたい。 ・おしゃべりをせずに集中して取り組みたい。 ・仕事を一生懸命にやった後いい気持ちになるから自分から積極的に取り組みたい。 ・人に役立つよう一生懸命に取り組みたい。	10分 全体	☆心身を労して働くことで得られる達成感や充実感、人の役に立つ喜びに気付くことができる。 ・お仕事シート実施のお知らせをする。

**ねらいの明確化**

- ・登場人物への自我関与がしやすいように、お茶摘み体験を映像で振り返ることを導入とした。
- ・生徒の実態を踏まえ、ねらいを「勤勉」に焦点化し、授業構想をした。

**発問の吟味**

- ・登場人物の心情を、自我関与しながら考える発問とした。
- ・おじいさんの気持ちを問うことで、誠実に働くことが、人のためになるという多角的な価値に気付かせる工夫をした。

**振り返りの充実**

- ・道徳的実践意欲についての思いを書かせるために、具体的な場面について問うようにした。
- ・「なぜ？」という理由まで書くように、継続して指導している。

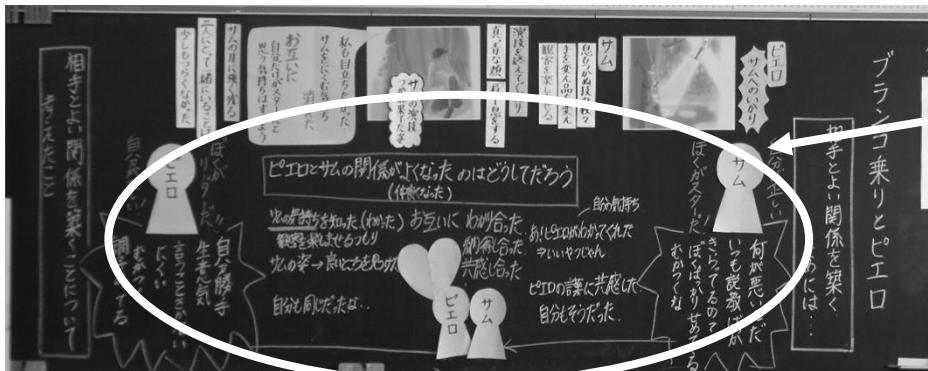


イラストをつかって心情を表現した板書

## オ 板書例

授業での板書は、子供が思考を深めるための重要な手がかりになる。順序や構造を示したり、内容の補足や補強をしたりする効果がある。その効果を生かすために、思考の流れや順序を示すだけでなく、違いや多様さを対比的、構造的に示すなどの工夫を考え、実践してきた。また、教師の一方的な板書ではなく、子供の考えを取り入れながら創造的な板書を心掛けてきた。

### 【2人の登場人物を対比させて考える板書】



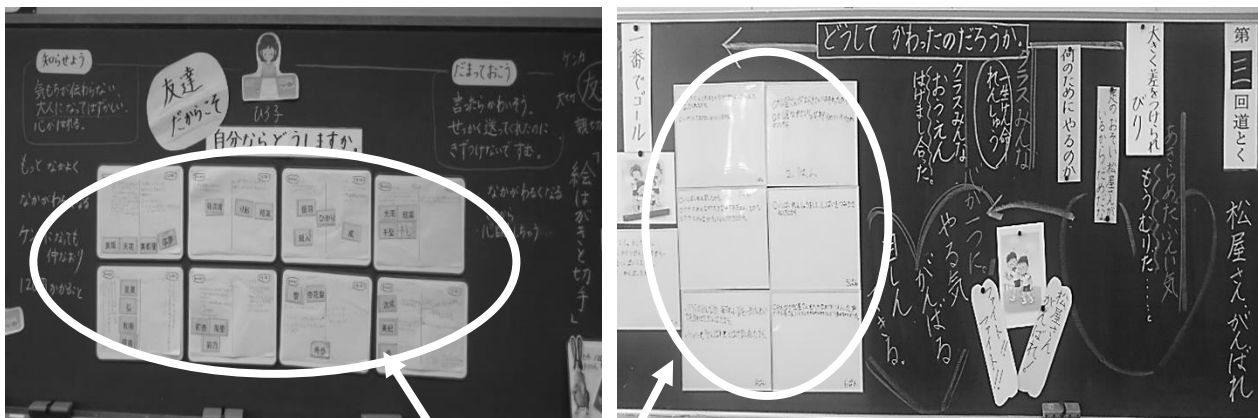
- ・相容れない2人の登場人物が、話が進むにつれて、お互いに心が通じ合っていく様子表現した板書。

### 【ネームプレートを活用した板書】



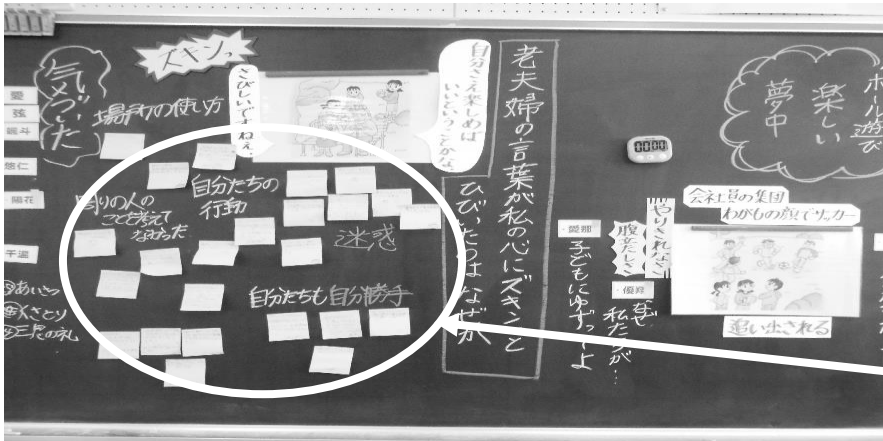
- ・ネームプレート、心のものさし、バロメーター等を使って、全員を授業に参加させ、一人一人の考えを見える化し、思考を深める支援とした板書。

### 【ホワイトボードを活用した板書】



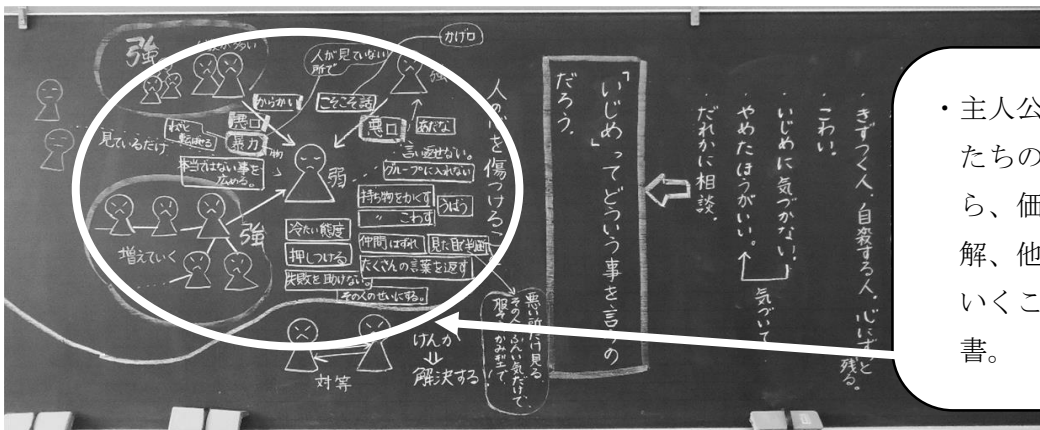
- ・ホワイトボードを使い、一目で各グループが考えた意見が分かる板書。

【付箋を活用した板書】



・付箋を使って自分の考えを明らかにし、類型化することで、多面的・多角的な考え方を分かりやすくしている板書。

【人間関係を表した板書】



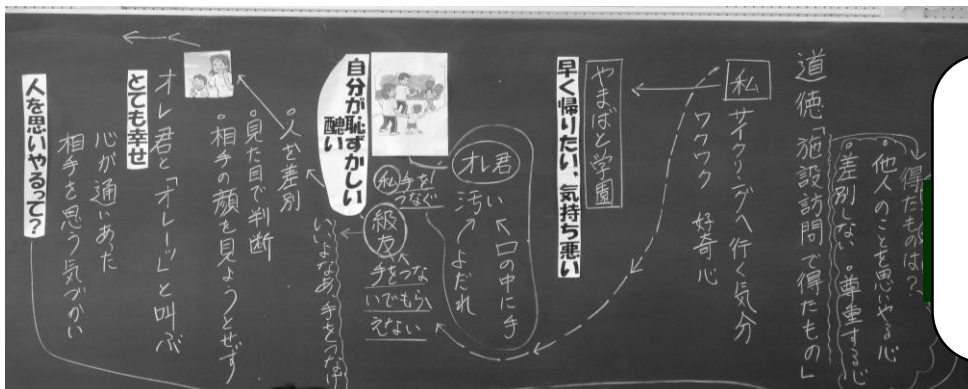
・主人公を中心に、子供たちの考えを広げながら、価値理解、人間理解、他者理解を深めていくことを補助する板書。

【思考の過程を表した板書】



・子供たちから出された道徳的問題について議論し、考えを深めていった過程を表した板書。

【主人公の気持ちの変化を曲線で表現した板書】



・時系列で物語を整理し、全体を通して主人公の感情の浮き沈みを曲線で表現した板書。

## (2) 実践研究部

### ア 取組の概要・成果と課題

#### (7) 道徳教育全体計画・別業・年間指導計画の作成

研究指定を受ける以前は、全体計画及び年間指導計画について、各学校独自の形式・内容で作成されており、別業については、いずれの学校においても作成されていなかった。

そこで、研究初年度は、3校間で「縦の接続」と「横の連携」を意識した枠組みづくりと9年間を見通した内容の検討を行い、全体計画及び年間指導計画の見直しを図った。別業については、形式を検討し、3校共通の形式による重点内容項目に絞った内容のものを作成した。

研究2年目となる本年度は、初年度に作成したものを基に実践を積み重ねながら、別業の見直しに取り組んでいる。今後は、重点内容項目以外のものについて、別業へ加筆していく予定である。

#### (4) 道徳の時間と各教科等との関連的指導の工夫

3校では、道徳の時間を要としながら、次のa～cについて取り組むことにより、教育活動全体での道徳教育推進に取り組んだ。

##### a 各教科における取組

各教科等の目標とともに、本時における道徳教育のねらいを明確化し、授業を行った。

例：中学校保健体育科「柔道」、小学校生活科「のりものたんけん」等

##### b 特別活動における取組

学校行事や学級活動において、活動の目的や目標とともに、活動を通して育みたい道徳的心情、判断力等を意識し、児童生徒に意図的な働き掛けを行った。

##### c 生徒指導における取組

島田市では、日本の文化を知り、豊かな心を育てることをねらいとして、和文化教育を継続的に実践している。「形を整えて、心を整える」という考え方が3校に息づいており、各校共通実践として、「あいさつ」「だまってそうじ」「はきものそろえ」に取り組んだ。



あいさつ運動

#### (7) 「私（わたし）たちの道徳」の活用

道徳の授業の資料としてだけでなく、学年開きや家庭学習カードなどにも活用した。

#### (1) 環境整備

道徳教育を支える環境づくりとして、道徳コーナーの設置、図書館支援員との連携等を進めた。



はきものそろえ

#### (4) 成果と課題

以下の成果と課題に基づき、今後も道徳教育全体計画・別業・年間指導計画の見直し等を進め、3校の連携をさらに深めながら、道徳教育の改善と充実に努めていきたい。特に別業については、段階的に重点内容項目以外の内容項目について記載内容を広げていきたい。

○重点内容項目を意識し、年間を見通した教育活動全体での道徳教育を推進することができた。

・学級、学年経営、特別活動、生徒指導、他教科等における道徳教育の意図的・計画的な実践を積み重ねることができた。

・道徳の授業のねらいや重点内容項目を意識して、日常生活における児童生徒の道徳性の表出（行為・行動・習慣等）を見取り、価値付けられるようになってきており、道徳の授業と日常生活の往還が図られるようになってきている。

○教員のカリキュラム・マネジメントに対する意識の高まりが見られた。

・別業の作成により、意識して道徳の授業、他教科、行事等を横断的に実践することができるようになった。

・実践のみならず、評価、改善を行うことで、個々（学年）の実践に質的な改善が見られるようになった。

▲他教科における道徳教育の実践に厚みを持たせていく必要がある。

・教科の特性を生かしながら、より意図的・意識的に道徳教育を推進していきたい。

▲「私（わたし）たちの道徳」の授業以外での活用が十分できていない。

・家庭との架け橋としての活用が考えられたが、十分ではなかった。



全学年の別業

## イ 道徳教育全体計画・別葉・年間指導計画

### (7) 重点目標と重点内容項目（3校共通の重点）の設定

平成28年度の重点内容項目は、各校の実態により、若干の違いがあった。そこで、小中9年間を見通し、目指す子供の姿について、六合地区の児童生徒と保護者、教師の願いをもとに話し合うとともに、これまでに積み重ねてきた「六合地区小中連携教育」の重点目標とも照らし合わせ、平成29年度の重点目標を、「主体的に判断・行動し、他者とよりよく生きようとする児童生徒の育成」、3校共通の重点を「自主自律・思いやり」とした。

### (4) 道徳教育全体計画・別葉・年間指導計画の作成

全体計画と年間指導計画は、学校ごとに作られていたものをもとに、小中9年間の「縦の接続」、学校間・指導部間の「横の連携」を意識して、見直しを図った。別葉はいずれの学校でも作成されていなかったため、形式を考えることからスタートした。

道徳教育全体計画・別葉を作成するときに、すべての内容項目について記載する方法も考えたが、まずは重点内容項目を徹底することから始めようと、重点内容項目に特化した道徳全体計画・別葉とした。

全体計画を作成するに当たっては、「縦の接続」を意識し、まずは中学校が先行して中学校卒業時の「教科における目指す生徒の姿」を重点内容項目に沿って設定した。それをもとにして、小学校が小学校卒業時の「教科における目指す児童の姿」を設定し、全体計画に反映させた。

### 六合中 道徳全体計画用 教科における「目指す生徒の姿」

教科	重点項目	
	自主・自律 自由と責任	思いやり 感謝
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えに自信を持ち、周囲の目を気にせず、自ら進んで書いたり、話したりしている。</li> <li>小説(詩)において、登場人物の自主自律に基づいた生き方を読み取っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達の発言に対して耳を傾け、反応している。</li> <li>小説(詩)において、登場人物の他者に対する心遣いを読み取っている。</li> </ul>
数学	<ul style="list-style-type: none"> <li>事象を数理的に考察し、根拠をもとに考え表現しようとしている。</li> <li>数学的な見方や考え方を、積極的に問題の解決に活用しようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達の考え方をよく聴き、協力して課題解決に取り組んでいる。</li> <li>さまざまな見方や考え方に触れることで、数学に対する理解が深まることに気づき、友達に感謝する。</li> </ul>
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>自他の安全に配慮して観察・実験を行い、観察記録や実験結果について、科学的に自分の考えをまとめている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>互いの考えを尊重しながら話し合い活動に取り組んでいる。</li> <li>自然現象との関わりの中で、先人が行った実験や観察の結果が、科学技術の発展や自然環境保護に役立ち、自分たちの暮らしが豊かになっていることに気づく。</li> </ul>
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>自由・権利と責任・義務との関係を正しく認識し、社会の主体者として公正に判断している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人権について理解し、相手の立場を尊重して、共有できるルールや価値観を模索している。</li> </ul>
音楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>合唱教材において、詩の内容や音楽の三要素であるメロディー・リズム・ハーモニーを自分なりの考えを持ち、積極的に表現している。</li> <li>詩の内容から自由と責任を感じて合唱している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>合唱教材において、パート練習や全体合唱で、パートリーダーを中心に、リーダーとフォロワーの関係を大切に取り組み、仲間と協力して合唱している。</li> <li>詩の内容により思いやり・感謝を感じて合唱している。</li> </ul>
美術	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分で主題を決め、形、構成、色、タッチなどの表現方法を工夫しながら制作している。</li> <li>自他の生徒作品や著名な作家の作品から、表現方法や技術を学び、意欲的に自分の作品に生かそうとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>鑑賞活動において、自他の作品を大切に扱い、作品に込められた意味や思いを感じ取ろうとする。</li> </ul>
技術	<ul style="list-style-type: none"> <li>栽培方法や回路構成、丈夫な構造など、互いに試行錯誤を重ねながら、工夫して学習に取り組もうとしている。</li> <li>身に付けた基礎的・基本的な知識及び技術を、積極的に生活に活かそうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実験や作業学習を互いにサポートし合っている。</li> <li>先人の知恵の素晴らしさに感動している。</li> <li>生物育成に関する技術が、食料、生産、生活環境など、多くの役割を持つことに気づく。</li> </ul>
家庭	<ul style="list-style-type: none"> <li>衣食住について学んだ知識や技能を活かして、自己の生活をより良くしようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭生活や地球社会と自分について考え、今まで支えてくれた人々に感謝の念をもつ。</li> <li>自他の健康や健全な成長に関心を持ち、互いの考えを尊重しながら学び合っている。</li> </ul>
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>まず技を実践し、手本となる動きや仲間の助言を参考に、自己課題を明確にもち、自ら解決のための方法を考え、練習方法などを工夫して安全に意欲的に学習に取り組んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自他の健康に関心をもち、互いに協力し合いながら、運動を楽しんでいる。</li> </ul>
英語	<ul style="list-style-type: none"> <li>我が国及び外国の人々の習慣や考え方を知って受け入れ、さらに自分なりの考えをもって学習に取り組んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>我が国及び外国の文化に関心をもって学習に取り組み、相手の立場を尊重しながらコミュニケーションを図ろうとしている。</li> </ul>

また、「横の連携」として3校で共通して実践できる内容を考えた。

六合地区は、生徒指導の中に和文化教育が息づいている。この六合地区の特長を生かして、3校の生徒指導の共通実践項目を「あいさつ」「だまってそうじ」「はきものそろえ」とした。また、道徳の授業に関する授業づくりの視点や家庭地域との連携、環境整備に関する内容も、3校で統一している。

【六合中 全体計画】

平成29年度 島田市立六合中学校 道徳教育全体計画

関係法規 ・日本国憲法 教育基本法 ・学習指導要領 道徳教育実施基本計画「自他の人」	願いを生徒に 心ゆたかに	六合地区小中連携教育のねらい 【精神となるもの】 ○道徳教育の年間を通して、児童生徒の学習・生徒生活を振り返り理解し、小中が一致した指導を行う。一学年間子どもを見守り一人一人の個性や能力の伸ばしや豊かな心身の育成を図る。 【ねらい】 ○共通した学力や指導の考えに基づいて豊かな学力の定着と一人一人の個性や能力の伸ばしや豊かな心身の育成を図る。 (1)豊かな学力・豊かな心を育て、児童生徒が安心して学習・生徒生活を営むことができるよう指導する。 (2)道徳教育について、各校で共通した取り組みを行った。三校が連携して取り組むべき内容を共通化することを目指す。 (3)三校が連携して、小中学校教育による交流授業、校内外の連携授業を実施し、生徒生活の充実を図る。互いの特色を生かして、児童生徒の学力や生活態度の向上を図る。
生徒の実態 ○道徳の取り組みが早い。 ○道徳教育の重要性が理解されている。 ○道徳教育の重要性が理解されている。 ○道徳教育の重要性が理解されている。	学校教育目標 ともに学び、たくましく生きる 協働 自律 貢献	本校の重点内容項目 A-(1)自主・自律、自由と責任 B-(6)思いやり、感謝
道徳の時間 ・「道徳教育の授業づくりの重点」を3校で共有している。	授業研究 道徳の授業づくり 道徳の授業づくり 道徳の授業づくり	道徳の時間の指導方針 道徳の時間と各教科との連携を図る。 道徳の時間と各教科との連携を図る。 道徳の時間と各教科との連携を図る。
各教科における目指す生徒の姿	特別支援教育 特別支援教育 特別支援教育	特別活動 特別活動 特別活動
道徳の授業づくりの視点	道徳の授業づくりの視点	道徳の授業づくりの視点
道徳の授業づくりの視点	道徳の授業づくりの視点	道徳の授業づくりの視点
道徳の授業づくりの視点	道徳の授業づくりの視点	道徳の授業づくりの視点
道徳の授業づくりの視点	道徳の授業づくりの視点	道徳の授業づくりの視点

【生徒指導】  
・「和文化教育」を意識し、各校で独自に取り組んでいた「あいさつ」「だまってそうじ」「はきものそろえ」を、3校の生徒指導の共通取組事項とした。

【道徳の時間】  
・「道徳教育の授業づくりの重点」を3校で共有している。

【各教科】  
・中学が先行して設定した「教科における目指す生徒の姿」を参考にして、小学校で「教科における目指す児童の姿」を設定した。中学校・小学校とも、重点内容項目別に、記載している。

【家庭地域との連携】  
・学校だより「心の窓」、学校ホームページ、親子道徳・講演会の実施、道徳授業公開など、取り組む内容を統一している。

【六合小 全体計画】

児童の実態 ○道徳の取り組みが早い。 ○道徳教育の重要性が理解されている。 ○道徳教育の重要性が理解されている。	教師の願い ・正しく判断し、進んで行動できる子 ・相手に思いやり、ともに生きていくことができる子 ・自主的に学ぶことができる子 ・目標をもち努力できる子	家庭・地域の願い 自分の考えをしっかりと伝えられる子 思いやりや感謝の心をもつ子 自主的に学ぶことができる子 目標をもち努力できる子	学校教育目標 心豊かに、たくましく生きる子	学校重点目標 考えよう！ 動こう！ 自分のために、相手のために	道徳重点目標 主体的に判断・行動し、他者より良く生きようとする児童	特別活動 ○よりよい生活を目指し、自治的・自発的に活動することができる。 ○他を思いやり、お互いに助け合いながらみんなのために活動することができる。(ハッピー活動) 【学級活動】 学級における生活向上・充実のための活動、係活動、番活動 【児童会活動】 代表委員会、委員会活動、児童集会、ペア活動 【クラブ活動】 クラブ活動、クラブ発表 【学校行事】 運動会、文化祭、健康・安全・体育的行事、遠足・修学旅行、合唱コンクール、発表会、発表会、発表会
教科における「目指す児童の姿」	教科における「目指す児童の姿」	教科における「目指す児童の姿」	教科における「目指す児童の姿」	教科における「目指す児童の姿」	教科における「目指す児童の姿」	教科における「目指す児童の姿」
国語 ○自分の考えをもち、進んで書いて、読んでいる。 ○物語文において、登場人物の自主・自立に基づいた生き方を認めている。	思いやり・親切 ・友達の考えをしっかり聞き、反応している。 ・物語文において、作者や登場人物の他に対する思いやりを認めている。	道徳の授業づくりの視点	道徳の授業づくりの視点	道徳の授業づくりの視点	道徳の授業づくりの視点	道徳の授業づくりの視点
社会 ○平和や国際的な国家・社会の一員としての自覚をもち、自他の人格を互いに尊重しながら、社会的義務や責任を果たそうとしている。	社会との関わりの中で、先人たちの偉大な文化や産業や工業製品をつくる人々の苦労を理解し、感謝の心をもちながら、理解を深めようとしている。	道徳の授業づくりの視点	道徳の授業づくりの視点	道徳の授業づくりの視点	道徳の授業づくりの視点	道徳の授業づくりの視点
算数 ○既習事項をもとに考え、表現しようとしている。 ○数学的な見方や考え方を活用し、課題に挑戦しようとしている。	友達の考えをよく聞き、協力して課題に取り組んでいる。	道徳の授業づくりの視点	道徳の授業づくりの視点	道徳の授業づくりの視点	道徳の授業づくりの視点	道徳の授業づくりの視点
理科 ○安全に気をつけて観察、実験をしている。 ○観察、実験を通して、科学的なものの見方を考えている。	自然環境と自分たちの生活が密接に関わっていることを知ることができ、自然に対する感謝の気持ちや自然を大切にしようという気持ちをもっている。	道徳の授業づくりの視点	道徳の授業づくりの視点	道徳の授業づくりの視点	道徳の授業づくりの視点	道徳の授業づくりの視点
生活 ○学校生活や校外生活などにおいて、ルールやマナーを守って活動している。 ○動物の世話など責任をもって行っている。	自然環境と自分たちの生活が密接に関わっていることを知ることができ、自然に対する感謝の気持ちや自然を大切にしようという気持ちをもっている。	道徳の授業づくりの視点	道徳の授業づくりの視点	道徳の授業づくりの視点	道徳の授業づくりの視点	道徳の授業づくりの視点
音楽 ○音楽ゲームにおいて、順番やルールを守って参加している。 ○（高）年齢や思いやりでも、一生懸命練習している。	（低）友達と心を一つにして練習に集中しようとしている。 （高）年齢や思いやりでも、一生懸命練習している。	道徳の授業づくりの視点	道徳の授業づくりの視点	道徳の授業づくりの視点	道徳の授業づくりの視点	道徳の授業づくりの視点
図工 ○自分で表現したいことを決める、材料や用具の特徴を生かして表現しようとする。 ○制作する際の約束を守り、安全に気をつけて活動している。	（低）友達と心を一つにして練習に集中しようとしている。 （高）年齢や思いやりでも、一生懸命練習している。	道徳の授業づくりの視点	道徳の授業づくりの視点	道徳の授業づくりの視点	道徳の授業づくりの視点	道徳の授業づくりの視点
家庭科 ○食生活について年々知識や技術を身につけて、毎日の生活をより良く過ごす方法を考えている。	家族の力を思いやり、自立を立てる。家族の役にたてるよう頑張っている。	道徳の授業づくりの視点	道徳の授業づくりの視点	道徳の授業づくりの視点	道徳の授業づくりの視点	道徳の授業づくりの視点
体育 ○まわりを守り、活動を楽しんでいる。種目のルールを守っている。	友達と協力して、運動に取り組むことができる。	道徳の授業づくりの視点	道徳の授業づくりの視点	道徳の授業づくりの視点	道徳の授業づくりの視点	道徳の授業づくりの視点
外国語 ○自分の考えや思ったことをはっきり伝えようと努力している。	友達との関わりに対してよりよい反応を示すことができるように努力している。	道徳の授業づくりの視点	道徳の授業づくりの視点	道徳の授業づくりの視点	道徳の授業づくりの視点	道徳の授業づくりの視点



別葉を作成するに当たっては、3校で形式を統一し、重点内容項目と関連のある内容に絞って記載している。縦軸を学校の教育活動、横軸を月とし、時系列に並べることで、1年間の学校生活のどの場面で重点内容項目に関連させた指導ができるのか、一目で分かるようにし、見通しを持った計画的な指導を行えるようにしている。

六合東小学校 道徳教育 全体計画別葉 (4年)

重点項目		主眼的に判断・行動し、他者とよりよく生きようとする児童											
重点項目		A-(1) 善悪の判断、自律、自由と責任 正しいと判断したことは、自信をもって行うこと。						B-(6) 親切 思いやり 相手のことを思いやり、進んで親切にすること。					
学校行事		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学校行事	運動会(A) B00			海の学校(A1) B00	玉前祭		運動会(A1) B00			学習発表会(A1) B00			
道徳	われわれの挑戦 手のひらの勇氣	おはようぼ なびのぼりも テンタテ動物よう	お母さんのせいせき つつこにやせ 楽しいお出陣 何を考えよう	お母さんのせいせき つつこにやせ 楽しいお出陣 何を考えよう	お母さんのせいせき つつこにやせ 楽しいお出陣 何を考えよう	お母さんのせいせき つつこにやせ 楽しいお出陣 何を考えよう	お母さんのせいせき つつこにやせ 楽しいお出陣 何を考えよう	お母さんのせいせき つつこにやせ 楽しいお出陣 何を考えよう	お母さんのせいせき つつこにやせ 楽しいお出陣 何を考えよう	お母さんのせいせき つつこにやせ 楽しいお出陣 何を考えよう	お母さんのせいせき つつこにやせ 楽しいお出陣 何を考えよう	お母さんのせいせき つつこにやせ 楽しいお出陣 何を考えよう	お母さんのせいせき つつこにやせ 楽しいお出陣 何を考えよう
特別活動	修学旅行(A) 1	修学旅行(B) 2	修学旅行(C) 3	修学旅行(D) 4	修学旅行(E) 5	修学旅行(F) 6	修学旅行(G) 7	修学旅行(H) 8	修学旅行(I) 9	修学旅行(J) 10	修学旅行(K) 11	修学旅行(L) 12	修学旅行(M) 13
領域	道徳	国語	社会	算数	理科	音楽	図工	体育・保健	総合的な学習の時間				

領域

月

p. 43 資料参照

年間指導計画を作成するに当たっては、4月に学年で話し合い共通理解した「学年の目指す子供の姿」を記載した。また、重点内容項目を年間で複数回扱うことにし、太字で示している。「私(わたし)たちの道徳」との関連の欄と、年間 35 時間の完全実施を目指すための「実施日」の欄も設けた。

教材を配置する際には、学校行事、学年行事などの教育活動、指導の時期などを別葉で確認しながら、道徳の教材をどの教育活動と関連付けて配置するか、学年で話し合い決定した。

平成29年度 第6学年 道徳 年間指導計画

六合東小学校 重点項目		【A-(1) 善悪の判断・自律・自由と責任】 【B-(7) 親切 思いやり】				
学年の願う子どもの姿		○自由を大切に、自律的に判断し、責任のある行動をしようとしている。 ○誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にしようとしている。				
月	実施日	内容項目	ねらい	主題・資料(出典)	学習活動(案)	関連
4	/	親切、思いやり B-(7)	親切の意味を知り、だれに対しても温かい心で接する態度を養う	「1年生のお世話」(心ゆたかに)	1 親切にした経験を発表する。 2 資料「1年生のお世話」を読んで話し合う。 3 今までの自分の生活を振り返り、下級生に接してきただろうか。	私たちの道徳「相手の立場に立って親切に」p60～69 ◎ペア活動、入学式、1年生を迎える会
	/	規則の尊重 C-(12)	公共道徳やまじりの意義を理解し、進んでこれを守る態度を養う	「フラワーパークのできごと」(心ゆたかに)	1 みんなが使う場所で使い方が間違えたと思ったことはないか考える。 2 資料「フラワーパークの出来事」を読んで話し合う。 3 今までのどんな気持ちでみんなが使う場所を使ってきたか。 4 児童の体験を聞く(作文、日記)	私たちの道徳「法やまじりを守って」p120～125 ◎通学区会
	/	節度・節制 A-(3)	自分の生活を振り返り、思慮深く行動するとともに、節度ある生活をする心情を育てる	「私の時間」(心ゆたかに)	1 6年生になってから、生活時間がどうなっているか考える。 2 資料「わたしの時間」を読んで話し合う。 3 児童の作文を聞く。	私たちの道徳「節度、節制を心がけて」p10～17
5	/	正直・誠実 A-(2)	良心に従い、物事を誠実にやり通す心情を育てる	「心の音」(心ゆたかに)	1 嘘やごまかしをされたことがあるか。 2 資料「心の音」を読んで話し合う。 3 今までに正直に言えてよかったと思ったことはどんなことか。 4 子どもの日記から誠実な行動をしているものを読む。	私たちの道徳「誠実に明るい心で」p38～41
	/	よりよい学校生活、集団生活の充実 C-(16)	学校の一員としての役割を自覚し、進んでよりよい校風をつくる意欲を育てる	よりよい校風を求めて「私たちの道徳」p160～163	1 6年生としてがんばっていることを発表する。 2 資料「私たちの道徳」よりよい校風を求めて」を読んで話し合う。 3 校則について考え、よりよい学校を作るためにできることを話し合う。	◎委員会・係活動
6	/	親切、思いやり B-(7)	相手の立場を考えたり、相手の気持ちも想像したりすることを通して、励ましたり援助をしたりする心情を育てる	「相手に思いを伝えたはずなのに…」私たちの道徳」p64～65	1 自分たちの生活を振り返って話し合う。 2 資料「相手に思いを伝えたはずなのに…」を読んで話し合う。 3 自分たちの生活を見つめ直し、今までの生活を反省する。	私たちの道徳「相手の立場に立って親切に」p60～69
	/	よりよく生きる喜び D-(22)	困難に立ち向かって挑戦する人について知り、目標に向かって努力するすばらしさを感じ、自分もあきらめず努力しようとする気持ちを育てる	「一歩踏み出すためには何かが必要なんだろう」NHKオンマイウェイ	1 できないことばつかったとき、どんなことを思うか話し合う。 2 動画を視聴して、小林さんの生き方について話し合う。 3 自分の生活を振り返り、考えたことをまとめる。	私たちの道徳「希望と勇氣をもつてくじげず」p18～21
	/	生命の尊さ D-(19)	生命の大切さと、それが多くの人によって守られていることを知り、進んで自他の生命を尊重する心情を育てる	「東京大空襲」(心ゆたかに)	1 太平洋戦争について理解する。 2 資料「東京大空襲」を読んで話し合う。 3 自分の命についてどのように考えているか。 4 母親からの手紙を読む。	私たちの道徳「自他の生命を尊重して」p98～107
/	友情・信頼 B-(10)	真の友情とは何かを知り、互いに信じ合い励まし合って、よりよい友人関係を築く心情を育てる	「良雄のノート」(心ゆたかに)	1 良い友達について話し合う。 2 資料「良雄のノート」を読んで話し合う。 3 友達と助け合い、信頼し合うことの大切さについて話し合う。 4 友達の作文を聞く。	私たちの道徳「たがいに信頼し、学び合って」p72～79	

(4) 別業・年間指導計画の見直し

作成した別業や年間指導計画は、職員の見えるところに掲示したり手元に置いたりして、日常的に加除修正し、よりよい方法や課題などをこれからの指導に生かすと共に、次年度に確実に引き継げるようにしている。

○別業の見直し

別業を意識し実践する際には、学年部または教科部で、この教材で重点内容項目を指導できるか、どういう言葉掛けや手立てを打てばよいかを共通理解している。話し合いの中で出された新たな気付きや修正点等は、道徳コーナーに掲示した別業に加除修正している。

【六合東小 職員道徳コーナー】



【六合中 職員道徳コーナー】



○年間指導計画の見直し

年間指導計画を立てる際、前年度の年間指導計画作成時の思いや、授業の反省を参考にできるように、記録を残すようにしている。

【六合東小】年度始めの学年の年間指導計画修正に込めた思いを、次年度につなぐ取組

前年度から引き継いだ年間指導計画を4月に見直すとき、どのような思いで修正したのか、記録するようにしている。年間指導計画の修正点とその理由を記録していくことで、教材を差し替えた学年職員の意図や、関連させたい教育活動に対する意識を明確にすることができる。更に、次年度へも、学年の年間指導計画に込めた思いをつなげることができる。

昨年度の年間計画		H29 年間指導計画	
5月 「美しい柿田川」		6月 「美しい柿田川」	
思い 6月に海の学校を実施するため、自然の美しさをカヌーを漕ぎながら感じるだろう。そのため、自然の美しさを教材とした「美しい柿田川」を6月に変更した。			
昨年度の年間計画		H29 年間指導計画	
6月 「大きなあれバッコヤナギ」		7月 「大きなあれバッコヤナギ」	
思い 7月に五郎祭があり、4年生の児童が参加する。そのため、伝統文化の尊重を価値とした本題材を、7月に変更した。			
昨年度の年間計画		H29 年間指導計画	
7月 「ケンタを助けよう」		5月 「ケンタを助けよう」	
思い 「美しい柿田川」と「大きなあれバッコヤナギ」を変更したため、「ケンタを助けよう」は、5月とせざるを得なくなった。			
昨年度の年間計画		H29 年間指導計画	
11月 「ピンチをはね返せ」		12月 「ピンチをはね返せ」	
12月 「ぶらんこ復活」		11月 「ぶらんこ復活」	
思い 12月9日に学習発表会がある。「ピンチをはね返せ」は、めあてにむかって、最後まで粘り強く努力し続けようとする態度をねらっている。学習発表会を成功させるためには、一人ひとりの努力をすることだろう。学習発表会にむけて頑張った自分を振り返り、「自分ってやるじゃん・すごいじゃん。」という自尊感情をもてることをねらって入れ替えた。			

【六合中】日々の授業の反省を記録し、次年度の年間指導計画に生かす取組

授業前には、年間指導計画に記されている学習活動について、「この発問でねらいに迫ることができるか。こんな活動を入れたら、より主体的な生徒同士の対話が見られるようになるのではないか。」など、よりよい授業を目指し、学年部で意見交換をする姿がたくさん見られる。授業後には、どのような生徒の姿が見られたか語り合っている。これらの話し合いを、左の授業記録メモに残している。これは、来年度の年間指導計画作成時に活用し、更なる授業改善につなげる。このような取組の結果、道徳授業の量的確保だけでなく、質的な転換にもつながっている。

道徳授業記録メモ 六合中		3年					
実施日	記録者	内容項目	ねらい	資料名 【出典】	資料 詳細	発問の例 (◎主発問◎補助発問)	〇結果 ▲課題 (生徒の姿、扱う時期など)
4/20 (木)		向上心 (個性 自覚)	自分だけが 一人の生活で 向上せ、進歩を モチベーションに モチベーション	14歳 4原327	A B C	・自分の生活にどんな ・自分の生活にどんな ・自分の生活にどんな ・自分の生活にどんな ・自分の生活にどんな	補助的に「道徳は何か 4原327で「道徳は何か 4原327で「道徳は何か 4原327で「道徳は何か 4原327で「道徳は何か
4/27 (木)		節度 お生活 能力	望ましい生活習慣を 身に付け、生活の安 定と精神の安定が 養育の向上につながる	明日の出発 (心掛か)	A B C	・自分の生活にどんな ・自分の生活にどんな ・自分の生活にどんな ・自分の生活にどんな ・自分の生活にどんな	補助的に「道徳は何か 4原327で「道徳は何か 4原327で「道徳は何か 4原327で「道徳は何か 4原327で「道徳は何か
5/1 (木)		公徳心 社会 意識	公徳心おの社会 意識の自覚と、 よき社会の発展に 貢献しようとする。	バスと赤子	A B C	・自分の生活にどんな ・自分の生活にどんな ・自分の生活にどんな ・自分の生活にどんな ・自分の生活にどんな	補助的に「道徳は何か 4原327で「道徳は何か 4原327で「道徳は何か 4原327で「道徳は何か 4原327で「道徳は何か
5/5 (木)		道徳 理解 公徳心	道徳の理解と、 よき社会の発展に 貢献しようとする。	二つのまじり	A B C	・自分の生活にどんな ・自分の生活にどんな ・自分の生活にどんな ・自分の生活にどんな ・自分の生活にどんな	補助的に「道徳は何か 4原327で「道徳は何か 4原327で「道徳は何か 4原327で「道徳は何か 4原327で「道徳は何か

ウ 道徳の時間と各教科等との関連的指導の工夫

(7) 各教科における取組

【六合小】

学年・教科名等	2年 生活科 のりものたんけんをしよう
本時の目標	駅やホーム、電車内で周りの人に迷惑をかけずに、班ごと電車に乗って目的地まで行くことができる。
道徳教育の視点	様々な人との触れ合いの中で、相手のことを考え、優しく接することができる。 (思いやり)
指導の流れ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 目的地までの行程を確認する。</li> <li>2 電車に乗る時のめあてを確認する。 「みんなの他にもお客さんがいるから、電車内でどのように過ごしたらいいか考えて乗ろう。」</li> <li>3 電車に乗って「のりものたんけん」をする。</li> <li>4 振り返りをする。 「席を譲ったり、静かにしたりと、周りの人のことを考えた行動ができましたね。」</li> </ol>
【子供のあらわれ】	<p>「電車に乗るときには、お年寄りがいたら席を譲ろう。」「大きな声を出さないようにしましょう。」などとグループでめあてを立てて校外学習に出かけた。電車内では静かにしたり、席を譲ったり、ホームを歩く時には他のお客さんに迷惑をかけないように道を譲ったりすることができた。</p>



学年・教科名等	6年 家庭科 私たちの生活時間
本時の目標	自分の1日の生活を友達との生活と比べながら振り返ることを通して、これからの生活をよりよくするためにはどうしたらいいのか考えることができる。
道徳教育の視点	自分の生活を振り返り、自律的に生活をする心情を育てる。(自主自律)
指導の流れ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 自分の1日の生活を、友達と比べ合いながら、振り返る。</li> <li>2 友達とアドバイスし合う。</li> <li>3 これからの自分の生活の計画を立てる。 「友達からのアドバイスを参考にして、計画を立ててみよう。」</li> <li>4 振り返りをする。 「生活を見直し、よりよい生活をしようと考えることができましたね。」</li> </ol>
【子供のあらわれ】	<p>「友達にもっと早く寝た方がいいとアドバイスされたので、これから気をつけていこうと思う。」「友達と比べると宿題をする時間が遅いので、もっと宿題を早めにやって余裕をもった生活にしていきたい。」「今までは時間を気にしていなかったけど、〇時までには宿題を終わらせると目標を決めて生活をしたい。」などと、友達のアドバイスや生活を参考にして自分の生活を見直し、よりよい生活をしていこうと考えた児童が多くいた。</p>

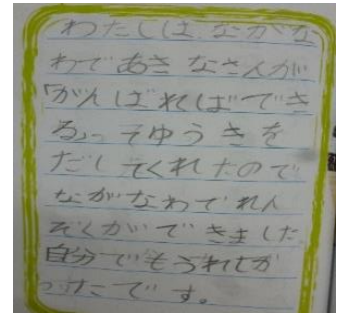


【六合東小】

学年・教科名等	2年 体育科 長縄とびで、めざせ新記録！
本時の目標	友達と励まし合いながら、自分たちの新記録を目指して頑張ろうとする。
道徳教育の視点	友達と助け合うことで、友達と仲良くする大切さに気付く。(友情)
指導の流れ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 前時の振り返りを紹介する。 「友達に応援してもらってうれしかったと書いた人がいました。応援するっていいことですね。」</li> <li>2 同じくらいの速さの人とグループを作って練習をする。</li> <li>3 振り返りをする。 「友達を励ます言葉が、温かくてよかったですね。」</li> </ol>

【子供のあらわれ】

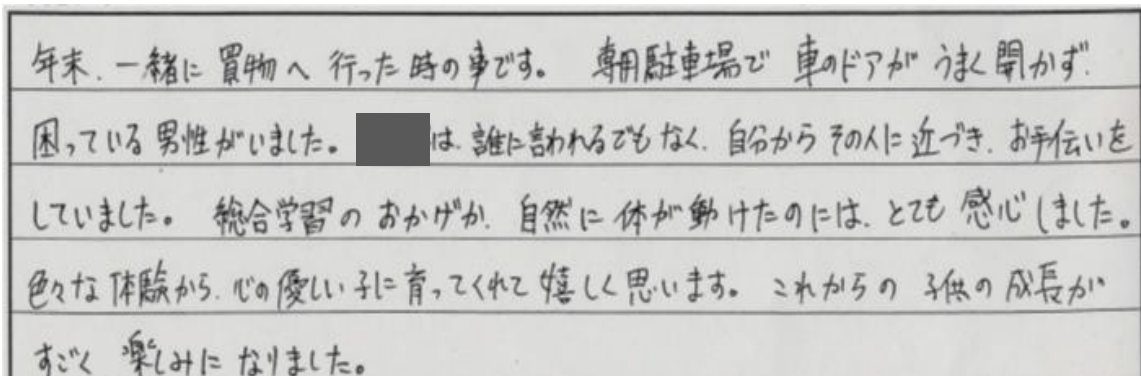
同じくらいの速さで跳べる友達とグループになったことで、やる気や安心感が出て、記録が伸びた。「いいね。」「その調子。」「もう少しだね。」「ドンマイ。」など、温かい言葉かけがたくさん見られるようになり、上手に跳べる児童が増えた。「友達が応援してくれたから跳べるようになってうれしかった。」「〇〇さんをみんなで応援したら跳べるようになってうれしかったよ。」と振り返る児童もいた。



学年・教科名等	4年 総合的な学習の時間 みんなしあわせ、わたしたちのまち
本時の目標	私たちの住む「まち」にはいろいろな人が住んでいることに気付き、みんなに優しい「まち」にしたいという思いを持つ。
道徳教育の視点	相手の気持ちや立場を考えて、進んで親切にする。(思いやり)
指導の流れ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 2枚の写真(改札口・道路)を見て、話し合う。 「便利だなと思うこと、不便だなと思うことを見つけよう。」</li> <li>2 誰にとっての便利・不便なのかを考える。</li> <li>3 福祉とは何かを押さえる。 「福祉とは、地域に住む人みんなが幸せになることです。みんなが幸せになるよう、相手の立場や気持ちを考えていけるといいですね。」</li> </ol>

【子供のあらわれ】

「相手の気持ちを考えたい。」と思っていたAさんが、総合的な学習で福祉について学んでいき、年末には困っている人の手伝いを進んで行った。(Aさんの保護者からの手紙より)



【六合中】

学年・教科名等	1年 保健体育科 柔道
本時の目標	崩しを理解し、小集団で崩しのコツを探す活動を通して、押す、引くなどの駆け引きによってバランスを崩すことができる。
道徳教育の視点	受と取がいることで互いに崩しや受け身の稽古ができる「自他共栄」の精神を大切にしようとする。(思いやり)
指導の流れ	<ol style="list-style-type: none"> <li>「自他共栄」について説明する。 「相手を尊重、感謝することで信頼し合い、助け合う心を育み、自分だけでなく他人を共に栄えある世の中にしようとする。この精神を大切にしてい、稽古しよう。」</li> <li>3人組で、受・取・観察に分かれ、崩しのコツを見つける。</li> <li>崩し合い勝負をする。</li> <li>振り返りをする。</li> </ol>

【子供のあらわれ】

取が自らコツを見付けることはもちろんのことながら、受が取に「引き手は思いっきり引いていいよ。その方が倒れそうだ。」など、違う立場からアドバイス、交流する姿が見られた。受も初めて投げられる感覚を経験し、柔道の醍醐味や「自他共栄」の精神を体感できた。



学年・教科名等	3年 社会科 私たちが作るこれからの社会
本時の目標	相手の立場も尊重し、話し合いの中から納得するルールを考えることができる。
道徳教育の視点	それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解する。(相互理解)
指導の流れ	<ol style="list-style-type: none"> <li>今回考えるルールの条件とそれぞれの立場を確認する。 「マンションの駐車場問題で、誰もが納得するルールを考えよう。」</li> <li>自分の考えを班内で発表し、よりよい意見に深める。</li> <li>他の班の意見も聞き、自分の意見を修正する。</li> <li>振り返りをする。 「自分の立場だけでなく、相手の立場も考えていましたね。」 「いろいろな考えがあって、答えは一つではないんですね。」</li> </ol>

【子供のあらわれ】

当初、自分の考えを強硬に主張するだけだった生徒も、周囲の意見に耳を傾け、人の立場に立った発言をするようになった。人の意見を聞いてみたいと、周囲に積極的に意見を求めたり、出された意見を自分の意見と比較したりすることで考えが深まっている様子が見られた。





#### (4) 特別活動における取組

##### 【六合小】

###### ○応援練習で育てる自主自律

応援練習ではリーダーである6年生もあまり声が出ていなかった。担任だけでなく、団長も悩んでいた。そこで担任から6年生の子供たちへ、「自分たちで何かできることはないか考えてみよう。」と投げ掛けた。



自ら全力で応援する子供たち

放課後、男子6人が自主的に運動場で応援練習をしていた。とても大きな声が出ていたので、「みんなの前でお手本を見せてほしい。」と声を掛けたところ、快く応じてくれた。6人だけで大きな声を出している姿を見て、他の6年生も声が大きくなった。「たった6人であんなに大きな声を出せるなんてすごい。」「自分も大きな声を出そうと思った。」「出してみたら、私も大きな声を出せるんだ。」と、自主的に練習したことをきっかけに、子供たち一人一人が自分の成長を実感できた。

###### ○はちまきの整頓から見えた、思いやりと感謝

運動会練習が終わるたびに、はちまきを集めてかごにしまっている。ある時、数人の子供たちが、はちまきを整頓していた。きれいに並べているだけだと思っていたが、よく見ると、はちまきの番号が見えるようにして、「次に使うときにわかりやすいから。」と言った。教師は「みんなが、次、取りやすいようにしてくれているんだね。みんなのことを考えてくれてありがとう。」と価値付けるとともに、この出来事を学級で紹介したところ、番号が見えるように置く子、並べ直す子がだんだんと増えていった。



###### ○「ハッピー活動」で培う自主性と思いやり

「ハッピー活動」とは、みんなが気持ちよく学校生活を送ることができるように、子供が気付いたことに対して進んで取り組む活動である。この時、下の写真のような腕章をつけている。これは、子供自身の意識付けと周りの人に活動が見えるようにするためだ。



例えば、数日掃除が行われない時など、階段に埃が溜まっていると、それに気付いた子供たちが進んで清掃活動を行う光景が見られる。「きれいな学校だと



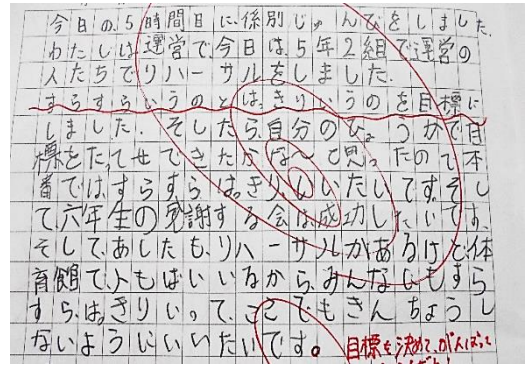
みんなが気持ちよく生活できるから。」と、思いやりの心を行動に表す姿が多く見られる。



## 【六合東小】

### ○運営する立場になることで育てる自主自律

Bさんは、いつもはあまり人前に立って話すことを好まないが、自分を向上させたいという気持ちから、運営係になった。運営係は、全校児童の前で話す場があるということを意識し、教室での発表も聞いている人に伝わりやすいように、心掛けている様子がうかがえた。目標をもちながら日々生活している姿に感心し、Bさんの日記を学級の子供たちにも紹介し、頑張りを伝えた。



Bさんの日記

### ○「クラスの合い言葉」から生まれる思いやり

学級会では、まず、個々が運動会のめあてを持ち、そこからクラスのめあてを話し合い、クラスとしてどんな運動会にしたいかを考えさせた。様々な言葉が出された中で3年3組は「力を合わせて」「団結」を選んだ。そのためには「友達を思う心」が大切であることを確認し、「友達の良さ」を認め合っていこうとする方向性が見えてきた。

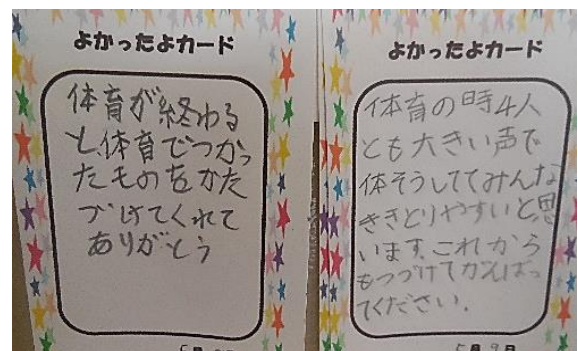


教師は日々の教育活動の中に、

「友達を思う」子供たちの表れがあれば、機を逃さず価値付ける。記録が塗り替えられた時などに、どんな姿が「団結」なのか、その裏にどんな「思いやり」の心があったのかを考えさせ、確認し、できたことをみんなで喜ぶような時間を設けた。

### ○「やって当たり前」から「相手を思った」係活動へ

各学級には窓の開け閉めや配達など様々な係があり、子供たち全員が何らかの係に所属している。教師は、仕事を忘れてしまった子供に「自分の仕事は責任を持ってやりましょう。」という声掛けをし、やらないことは悪いことという評価をしがちである。そこで発想を変え、「やってくれてありがとう」という思いをもって関わっている。どんな



簡単な仕事でも、「やってくれたからみんなが助かっているよ。」とねぎらい、価値付けるのである。そうすることで、子供たちにも「やってくれてありがとう。」「みんなのために活動しよう。」と、「相手を思った係活動」という意識が浸透してきている。

## 【六合中】

### ○地域とのつながりにより育まれる感謝の心と愛校心

生徒会活動の主体性を高めるとともに、学校と地域との結びつきを強めることを目的として毎年引き継がれているボランティア活動が、「人に優しい日、あいさつ運動」である。しかし、今年度は「人だけではなく、自分たちを育ててくれている地域にも感謝の気持ちを伝えよう」という考えから「六合に優しい日」としてスタートを切った。代議員会で話し合



小学校の正門で、中学生があいさつ運動

い、「きれいな町に住みたいからゴミ拾いをしよう」「人とのつながりは大切だからあいさつ運動は継続しよう」「見守り隊の方に感謝の手紙を書こう」と、地域に感謝・貢献する活動が行われている。

生徒は、あいさつを交わす気持ち良さを感じるとともに、小学校の先生や見守り隊の方から「中学生があいさつをしてくれることで小学生もあいさつの声が大きくなるので非常に嬉しい。」という言葉をいただき、六中生としての誇りを持つきっかけにもなっている。

### ○行事で培われる仲間との絆、そして感動

四大大行事の一つである文化発表会。やはりメインは学級合唱である。縦割りブロックで交換合唱を行い、下級生は上級生の意識の高さを肌で感じる。



そして、どの学級も最優秀賞を目指し、友達の良いところを認め、課題はしっかり指摘しながら練習をする。合唱も運営も生徒自身がよりよいものを目指し、創り上げることで、跳び上がる

ほど喜んだり、感動して涙を流したりと、仲間の良さを感じ、感謝の気持ちを強くしている。

### ○全校VS活動（地域清掃活動）を通じて芽生える、地域の一員としての自覚と感謝

縦割りブロックごと、協力して地域の美化活動に取り組むとともに、地域への感謝の気持ちを養い、六中生としての誇りを持つことを目的として毎年行っている。3年生一人一人が異学年集団の班リーダーとなるよう活躍の場を与えている。すると3年生はリーダーとしての自覚をもち、下級生に的確に声掛けをする姿が見られた。



いっぱいになったゴミ袋を3年生が頼もしく持つと下級生が「持ちます。」と声を掛ける。そして仲よく助け合いながら持ち帰る。2年生は「来年は先輩たちのようになりたい。」と縦の繋がりを創り上げることができた。活動中、地域の方から「きれいになるよ。ありがとう。」と声をかけられ、「最初は暑くて面倒だと思ったけれど、終わってみるととてもきれいになっていてやりがいを感じた。」と活動前と活動後の心の変容が大きく、地域の一員として役に立った喜びや、仲間や地域に感謝する心が育っていった。

## (ウ) 生徒指導における取組

島田市では、日本の文化を知り、他を思いやる心、感動する心など「豊かな心」を育てることをねらいとして、和文化教育を継続的に実践している。六合地区3校においても「形を整え、心を整える」という考え方が根付いており、共通実践として「あいさつ」「だまってそうじ」「はきものそろえ」に取り組んでいる。

4月当初、各校において、朝礼や生徒指導集会等の機会に、「形を整え、心を整える」という言葉と意味、そこに込められている教師の願いや思いを子供たちに紹介した。

例えば、スリッパを整えることは「形を整える」ことであり、そうすることで自分だけでなく、周りの仲間の心も豊かになること、全員が意識して継続的に取り組んでいくことで、学校全体が生活しやすい空間になっていくということを伝え、学校全体で共通理解できるようにした。



### a あいさつの実践

生徒会や児童会、委員会、ボランティア等が自主的に呼び掛け合い、毎朝「あいさつ運動」を行う等、各校の児童生徒の自主性やアイデアを生かしながら、あいさつの輪を広げている。



### (a) あいさつボランティア【六合中】

毎朝生徒会と部活動のボランティアが昇降口で「あいさつ運動」を行っている。学習専門委員会では、授業の前後に『語先後礼』を呼びかけている。この実践により「あいさつ」は下に向かってするものではなく、相手に対してするものという意識が高まり、よりよい人間関係や授業を築くきっかけとなった。



### (b) にじ色あいさつ【六合東小】

虹の七色になぞらえた七つのあいさつを全校集会で紹介した。そして、2か月ごとに個々の振り返りを行い、全校で次への取組につなげた。

- ・にじ色あいさつの「ありがとう。」が相手の心に届くようにしっかり言えた。
- ・私は朝、見守り隊の人の方をちゃんと見て、あいさつしました。

さらに、保護者に向けたおたよりを通して、学校でのにじ色あいさつの取組や効果を知らせた。「我が家のにじ色あいさつ」の募集に多くの保護者が応え、家庭での様子を知らせてくださった。



〈保護者より〉

- ・我が家では、毎朝学校に行く時「いってらっしゃい。」だけでなく「がんばって！」の一言もプラスして声掛けをしています。
- ・近所の人に会ったら恥ずかしながら「こんにちは。」と自らあいさつします。
- ・知っている人でも知らない人でも何かしてもらったら、必ず「ありがとう。」を言っています。相手へ「言葉の恩返し」です。

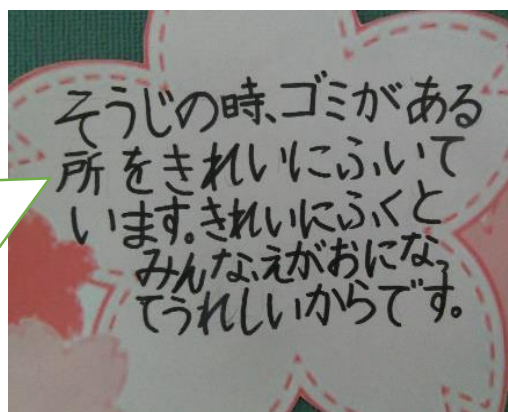
## b だまってそうじの実践



- ・そうじの時にだまってしずかにやっています。さいしよは声を出していたけど、今はしずかにやっています。
- ・つくえをきれいにそろえています。つくえを運ぶとき重いけど、みんなスマイルになれるからがんばっています。

役割分担をはっきりさせる、一か所の担当期間を数か月にするなど、各校の児童生徒の実態に合わせて共通理解を図りながら、「だまってそうじ」の徹底を目指した。

3校とも、そうじ開始時刻が近づくとそうじ場所へ移動し、放送の合図により一斉に始めのあいさつをする。そうじ時間は校内が静かになり、そうじを黙々とする姿が見られる。



掃除の振り返り（3年生）

## c はきものそろえの実践



朝や昼休みの後など、靴箱が整然としていることを自慢に思えるように、教師が常に認め励ます言葉を掛けたり、生徒指導主任や学級の係が賞揚したりしている。事情があって揃えられていない時は気がついた児童が進んで直すこともある。来校者に褒められることもあり、意欲が継続できている。

六合小では、これまでの継続的な指導により、高学年になればなるほどきちんとそろえられるようになってきている。しかし、低学年が意識できないことが多い。そこで、担任による毎日の声掛けだけでなく、靴箱やトイレに児童の意識を高めるような掲示物を置くようにしている。

トイレのスリッパを揃えることや、そうじを丁寧に行うことは、自分の次に使う人が気持ちよく使えるようにという、他者を思いやる心につながる。六合中の生活専門委員会では、ただ活動をするだけではなく、自分たちの活動にどんな価値があるのかを考え、掲示物を作って自分の学級に伝えている。



(E) 「私（わたし）たちの道徳」の活用

a 親子道徳としての活用

六合中では、掲載資料を家庭へ配布し、親子で道徳的価値について話し合う機会作りを行った。平成28年度の親子道徳では、「私（わたし）たちの道徳」の184ページに掲載されている鎌田實氏のコラムを取り上げ、家の人に感想を書いていただいた。

感想の提出は任意としたが、全校の4分の1ほどの家庭から感想が提出された。感想の内容からは、保護者の方がコラムを読んで感じたことや、子どもと話し合ったことなどが書かれており、親子で道徳的価値について話す機会を作ることができた。また、中には保護者だけでなく生徒本人の感想が書かれているものもあり、そのことから、扱った資料が保護者にも生徒にも適していたと考えられる。

のころへやってきました、びっくりするくらい話をしてくれました。僕たち医師は、子供のために生きたいと言っている彼女の気持ちも大事にしようと思ひ、彼女の体調が少しずつよくなる外泊許可を出していました。「母は家に帰ってくるたびに、私たちにお弁当を作ってくれました」と娘さんは言いました。彼女が最後の最後に家へ帰った時、もうその時は立つこともできない状態です。病院の昔が引き留めただけで、レシートも用意しないと。そこで僕は、「じゃあ家に布団を敷いて、家の空気だけ吸ったら戻っていらしゃい」と言って送り出しました。ところがその日、彼女は家で台所に立ちました。立てるはずのない者が最後の力を振り絞ってお弁当を作るんです。その時のことを娘さんはこのように話してくれました。「お母さんが最後に作ってくれたお弁当はおむすびでした。そのおむすびを持って、

僕が看取った患者さんに、スキルスワッグに響いた女性の方がいました。余命三か月と診断され、彼女は緩和中央病院の緩和ケア病棟にやってきました。ある日、病室のベランダでお茶を飲みながら話していると、彼女がこう言ったんです。「先生、助からないのはもう分かってます。だけれど、少しでも長生きをさせてください」。彼女はその後、四十二歳ですけれど、それがそうだろうなと思ひながらも返事に困って、黙ってお茶を飲んでました。すると彼女が、「子供がいる。子供の卒業式まで生きたい。卒業式を母親として見てあげたい」と言うんです。九月のことでした。彼女はあと三か月、十二月くらいまで生きられない。でも私は春まで生きて子供の卒業式を見てあげたい。か。子供のためにどう思ひが何かを変えたいかと思ひます。

「致知」2017年7月号

年 組 生徒氏名

---



---



---



---



---



---




---

願う生徒像 「心ゆたかに」  
 学校教育目標 「ともに学び たくましく生きる」  
 協働 自律 貢献

**2月**

第5期→(1/5~3/17)「自分の成長を振り返り、人に感謝するステージ」  
 島田市立六合中学校 2月号(親子道徳号)



第2回 親子道徳


今回は、親子道徳の二回目として、生徒全員に配布されている「私たちの道徳」から以下のコラムを掲載させていただきます。このコラムを家庭内で読んでいただき、感想や思ったことなどをお話し合ってください。裏面に記入欄を設けましたので、感想や話し合った内容、様子などについてお寄せいただければありがたいと思います。よろしく願ひいたします。

奇跡は起きました。春まで生きて、卒業式に出席できた。こうしたことは科学的にも立証されていて、例えば希望を持って生きている人のほうが、がんと闘ってくれるナチュラールキラー細胞が活性化するという研究も発表されています。おそらく彼の場合も、希望が体の中にある見えない三つのシステム、内分泌、自律神経、免疫を活性化させたのではないかと思ひます。

さくらに不思議なことが起きました。彼女には二人のお子さんがいます。上の子が高校三年で、下の子が高校二年。せめて上の子の卒業式までは生かしてあげたいと僕たちは思っています。でも彼女は、余命三か月と言われてから、一年八か月も生きて、二人のお子さんの卒業式を見てあげることができました。そして、一か月ほどして亡くなりました。

彼女が亡くなった後、娘さんが僕

●東京出身。医師、緩和中央病院院長、経営危機の病院にあった緩和中央病院の医師として勤務。昭和63(1988)年に院長に就任。●書籍「がんばらない」では、延命だけを目的とした治療を批判的にとらえ、患者とその家族に寄り添う緩和ケアや緩和ケアがなると死についての考えがとらえられている。●ペルー・シカ和道(当時シカ)のチエルノブイリ原子力発電所事故の被災患者の治療などの支援活動に取り組んでいる。



鎌田 實 (かまたみのる) 1948～

年 組 生徒氏名

コラムを読んで 同じように子供の頃に母親を亡くした祖母の  
言葉をしました。まだ小学生だった祖母は3姉妹の長女。一番下の妹は3才  
下の弟である。大変な小学校生活を一生懸命生き抜く為にがんばって来た。今は  
祖母の義母(再婚の前の親)の看護を感謝の気持ちで行っています。  
いつかでも命があたわればよい。あたり前を感謝することが大切だと思いは。  
親子とこんな話はなかなかないのでよい機会でした。コラムを読んで涙がこぼれ  
てきました。

年 組 生徒氏名

"希望"ほととほもぶく、強い物だなと思いました。  
自分の気持ちなど、夢を持って大それたな  
と思いました。人の夢をりがしたり、無理だよ  
とかきめつけてることがとてもだめなことが分かりました。

人の思い、母の子供に対する思いは強いものだと感じ、共感しました。私自身の母親も  
体調が悪くても、わたしたちの前ではいつも  
元気にしきちんと家事をこなしてくれていま  
した。このお母さんはただ体調が悪いだけで  
はなく、余命3ヶ月と言われていたけど、子  
供の成長を見届けたいという心でここまで頑  
張れたのだと思います。子供に対する愛情が  
あるからこそその思いであり、結果であったの  
だと思ひ、子供たちもそのお母さんの思い  
が伝わってきたから、最後のお弁当も食べる  
ことができなかつたのだと思います。強い思  
いは、必ず周りの人にも伝わり、結果が出る  
ものだと私も思ひます。〇〇も書いていたよ  
うに、何事にもあきらめることをせず、前  
に進んでいけば、良い結果を得ることができ  
ると思ひます。そのために、その目標を明確  
にしていくのも必要なんだと思ひます。このお  
母さんのように、私も子供たちのためなら、  
一生懸命になれます。母は強い！！

人の思い、母の子供に対する思いは強いものだと感じ、共感しました。私自身の母親も  
体調が悪くても、わたしたちの前ではいつも  
元気にしきちんと家事をこなしてくれていま  
した。このお母さんはただ体調が悪いだけで  
はなく、余命3ヶ月と言われていたけど、子  
供の成長を見届けたいという心でここまで頑  
張れたのだと思います。子供に対する愛情が  
あるからこそその思いであり、結果であったの  
だと思ひ、子供たちもそのお母さんの思い  
が伝わってきたから、最後のお弁当も食べる  
ことができなかつたのだと思います。強い思  
いは、必ず周りの人にも伝わり、結果が出る  
ものだと私も思ひます。〇〇も書いていたよ  
うに、何事にもあきらめることをせず、前  
に進んでいけば、良い結果を得ることができ  
ると思ひます。そのために、その目標を明確  
にしていくのも必要なんだと思ひます。このお  
母さんのように、私も子供たちのためなら、  
一生懸命になれます。母は強い！！

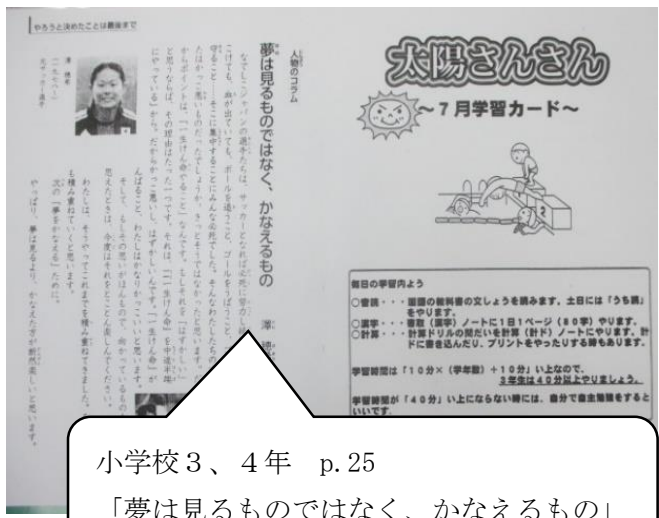
### b 学校生活の中での活用

「私(わたし)たちの道徳」は、気軽に手にとって見られるように、教室の本棚や個人のロッカー、ブックバックなどに入れている。また、読み物教材は、授業で扱うだけでなく、朝読書や持ち帰っての家庭読書に使用している。

「私(わたし)たちの道徳」に掲載されている詩や歌には、道徳的な価値がメッセージとして込められている。教師は、それらの内容を吟味し、学年づくりの一つのツールとして、学年開きや、家庭学習カード、学年歌、学習発表会での群読発表等に活用している。それを、年間を通して活用する事で、そこに込められたメッセージを子供たちに送り続けている。



小学校3、4年 p.20  
「わたしの前に続く一本の道」



小学校3、4年 p.25  
「夢は見るものではなく、かなえるもの」

(木) 環境整備

① 道徳コーナー

学級・学年で設置し、児童生徒だけでなく教師も学習を振り返ることができる。内容項目ごとに色分けをしたり、資料名や授業中の発言を書いたりするなどしている。



② 重点項目を意識した学年・学級掲示

学年行事や学校行事で育った「心」を見える化し、積み上げている。



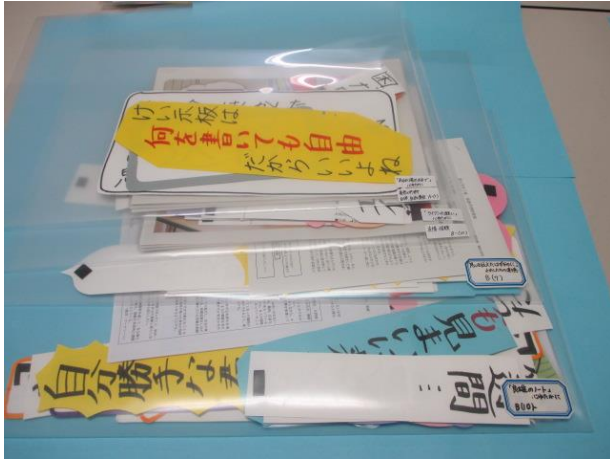
年間を見通した学年掲示



運動会の学級掲示

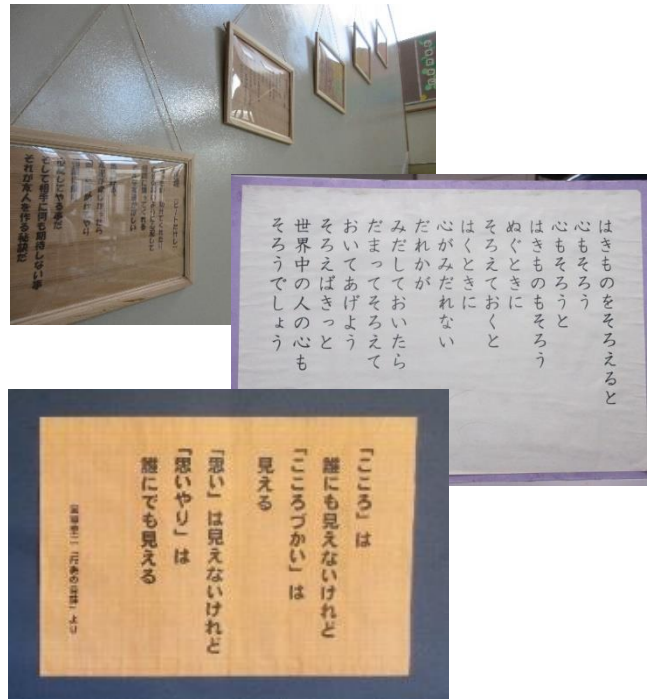
③ 資料の整理

授業で使用した資料などをクリアホルダーなどに入れて保存し、他の学級や次年度にも活用できるようにしている。



④ 校内の詩の掲示

階段や靴箱、学年棟などに掲示し、児童生徒の心を耕している。



⑤ 養護教諭や図書館支援員との連携

道徳教育を意識した掲示物やコーナーを設置している。



保健室前の掲示

ここをめくると・・・

心がSOSを出しているね。  
とにかくだれかに相談してみよう。



図書館の図書コーナー



### (3) 連携研究部

#### ア 取組の概要・成果と課題

##### (7) 地域との連携について

学校ホームページや学校だよりの充実を心掛け、学校と家庭や地域が情報を共有している。そのため学校行事などには地域の方の参加があったり、その様子取材し自治会だよりに掲載されたりしている。また、学校だよりに3校共通で『こころの窓』という道徳コーナーを設け、道徳教育に関する内容を地域・家庭に発信している。



##### (イ) 家庭との連携について

###### 親子道徳

児童生徒と保護者が同じ場で講演を聴き、家庭で内容について話し合う機会とした。また、参加できなかった家庭は、児童生徒から内容を聞いて、いろいろな話ができたとの感想を多数いただいた。

###### 六合小

H28 「幸せ」を生み出す「やる気」と「優しさ」『自分のなかにある宝物』

国立大学法人鳴門教育大学 久我直人 教授

H29 『夢の実現に向けて』ホスピタル・クラウン 大棟耕介 氏  
六合東小学校

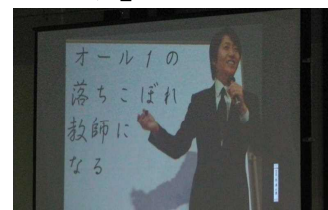
H28 『夢の実現に向けて』ホスピタル・クラウン 大棟耕介 氏

H29 『オール1の落ちこぼれ、教師になる』宮本延春 氏

###### 六合中学校

H28 『オール1の落ちこぼれ、教師になる』宮本延春 氏

H29 『車いすで跳ぶ人生 生きる力、子育て力』濱宮郷詞 氏



###### 授業公開(参観)

3校では授業参観で、道徳の公開授業を行う機会を設けている。保護者の皆様に授業を参観していただき、授業のねらいを説明したり御意見をいただいたりしている。

##### (ウ) 学校間の連携について



中学生は、朝のあいさつ運動を毎日行っている。時には六合駅や小学校の校門に行きあいさつを交わしている。

夏休みに学習ボランティアを行っている。中学生がボランティアで小学校に行き水泳や算数などの学習をサポートしている。

3校それぞれの学校で授業研究会を行い、事後研修をグループごと行う。その際、指導主事や講師を招いて講演などを聴き研修を深めている。

その他、中学校入学を見据えての入学説明会や小学校へ出向いての「ようこそ先輩」といった交流会も毎年行っている。



##### (エ) 成果と課題

- 校内のちょっとしたボランティアや地区の夏まつり、運動会のボランティアに積極的に参加するようになり、活動状況も大変意欲的であった。
- 地域の見守り隊(登下校の安全を見届けている方々)や地域で出会う方々とのあいさつが自然にできるようになった。
- 学校だよりを地域にも配ったり、学校の様子をホームページに頻繁に掲載したりすることでアクセスが増えたり、子供たちの地域での様子を連絡いただく機会が増加した。これは、学校と家庭や地域が情報を共有し、子供たちを育てていく雰囲気が出てきている現れである。
- 小学生低学年、中学年、高学年、中学生と発達段階に応じた教育を、9年間の見通しを持って行おうとする職員の意識が一層強くなった。
- 職員が小中合同研修会の際、授業づくりや教室環境づくりを学び合い、指導力向上を図る機会が増えた。
- ▲家庭、地域を巻き込んだ道徳教育の推進の具体策をさらに検討していきたい。
- ▲地域教材の開発や活用などに、保護者や地域の人々の積極的な参加や協力を得るなど連携を図ることの必要性を検討していきたい。
- ▲親子道徳のように親子で共通体験することの重要性を家庭に広めていきたい。

## イ 地域との連携の具体例

### (7) 学校ホームページ

六合地区3校では、それぞれホームページを開設して、子供たちの活動の様子を公開している。道徳の授業について、子供たちや授業者の表情、板書等の写真を掲載するとともに、授業のねらいや子供たちの発言などを紹介している。各校ともにホームページの更新頻度を高めるように努力しており、定期的に見て下さっている保護者や地域の方も多し。道徳の授業において、どんな点を大切にしているのか、何を目指しているのか、発信をする機会となっている。

152886・学校ニュース・道徳授業を見ていただきました

> 道徳授業を見ていただきました

いいね! | コメント | ツイート | 11ファンページ

2017年6月1日

六合小学校、六合中学校の先生方に集まっていただき、1年生、4年生、6年生の道徳授業を参観していただきました。自分の意見を詳しく発言したり、友達の考えに真剣に耳を傾けたりする姿が見られました。命の尊さ、信頼や友情、親切や思いやりなどをテーマに、六合小の子どもたちのクラスみんなで学び合う姿を参観していただくことができました。



### (4) 学校だよりを通して道徳教育を家庭や地域へ広めていく

六合地区3校の学校だよりには、共通して『こころの窓』というコーナーがあり、それぞれ、校内での道徳教育に関する内容を掲載している。『こころの窓』には、「子供たちの発言や感想など道徳授業の様子」「各学級に設置されている道徳コーナー紹介」「六合地区において道徳教育で子供たちに育てようとしていること」「道徳教育に関して家庭や地域にお願いをしたいこと」などが掲載されている。保護者や地域の方からは、「学校がどんなことに力を入れているかよくわかった。」「あいさつなど身近な事柄については地域でも一緒に育てていきたい。」などの声が『こころの窓』の感想として寄せられている。

## 『こころの窓』(道徳コーナー)

六合中学校区の小中学校3校では、文部科学省の指定を受け、「道徳教育の改善・充実」を図るよう研究を進めています。道徳教育を通して、「主体的に判断・行動し、他者(まわりの人たち)とよりよく生きようとする生徒」を育てることをめざしています。そのために、道徳の授業、教科学習、その他の活動を通して、どんな工夫をしたら良いかを話し合い、学校教育を行っています。



(写真は全校VS活動の様子)

すぐに成果があらわれるというものではないのですが、夏季休業中の生徒のあらわれで、学校外の方からお知らせいただいたことなどを紹介させていただきます。

- 学区内のあるお宅からお手紙をいただきました。内容は、「ゴミ置き場のゴミが、生き物の仕業か、散らかされていたので片付けていたところ、自転車で通りかかった六中生(1年女子2名)がさっと降りて手伝って片付けてくれた。大変ありがたく、すがすがしかった。」とのことでした。
- 近隣の児童クラブからお電話をいただきました。「サマーショートボランティアで3年生の男子生徒2名が来てくれた。大変真摯な態度で子どもたちに接してくれ、おやつの片付けなども、最後まで丁寧に対応してくれた。こちらから指示したことだけをこなすのではなく、自分から仕事を見つけて動いていて、大変感心した。」という内容でした。
- 六合中の近くにある交通量の多い交差点内に、大量のチラシ(荷物として運ばれていたのか)が散乱していたのを、六中生(1年女子)と六小生たちが拾い集めていました。教頭と生徒指導主事がたまたま通りかかり、車を置いて見に行くと、すでに協力してほぼ拾い集め終わったところでした。聞くと「たまたま通りかかったらこの状況だったので、車に気をつけて、協力して拾い集めた。」とのことでした。小学生も声を掛けたわけではないけど、様子を見て手伝ってくれたようです。

いずれも、自分で考えて判断し、行動していることがわかります。そして、よりよく生きようとする姿勢もみられました。普段の生活の中でもそうした意識で生活できていることが垣間見え、大変うれしく思います。

また、地域の方が、六中生を暖かく見守ってくださっていることが感じられ、心強く思います。ありがとうございました。



## ウ 家庭との連携の具体例

### (7) 親子道徳

#### 【六合小】

平成28年度の学校公開日に4、5、6年生とその保護者・地域の方々を対象に「親子道徳」を実施した。優しさは「自分を大切に思う心」から生まれてくること、それを発揮するには「聞く」「言葉遣い」「掃除」という「人を大切にする行動」が大切であるというお話から「人としての生き方」や「自分づくり」について考える時間になった。子供たち、保護者・地域の方々、学校職員が同じ話を聞くことは大変有意義であった。



- ・これから先、人のためになることも考え、思いやりの心を忘れずに生活してほしいと思いました。
- ・どんなことでも、人の役に立つことできっとやりがいを感じると思います。今はいろいろなことに興味を持って、積極的にチャレンジしてほしいです。
- ・人を大切にするために、まずは誰とでも仲良くなれることができたらいいなと思いました。
- ・子供と話し合う機会を持つことができました。大切なことに気付くことができたお話でした。

保護者の感想より

#### 【六合東小】

平成28年度の親子道徳として、ホスピタルクラウンの大棟耕介氏を招いて4年生以上の児童と保護者を対象にした講演会を行った。大棟氏は、クラウンの姿で登場して、椅子や梯子を使ったパフォーマンスを行って、子供たちの興味や関心を集めてから講演を行ってくださった。子供たちは、次のような感想を持つなど大棟氏の言葉に感銘を受けた様子が見られた。

大棟耕介さんは、病院で病気と戦っている子どもたちに笑顔をあげています。病気を治すことができなくても、みんなを笑顔にすることができて、とても、すばらしい人だと思いました。

心に残ったことは、勇気をもって一步をふみ出すということです。今までは、みんなが言っているからそうしようとか、やりたいけど一人だからやめようとか少し自分に自信がなかった。これからは自分に自信をもって勇気を出して一步を踏み出そうと思いました。



ぼくは、大棟耕介さんのおかげで、どんなにもお母さんが大切にしてくれたか知ることができました。それを知ったぼくは、チャレンジしない人間なんてもったいなさすぎると思いました。

#### 【六合中】

178人の保護者の参加があった。生徒と保護者が同じ場で講演を聴き、家庭で内容について話し合う機会とした。参加できなかった家庭も、生徒から内容を聞いて話し合う時間を取ってもらった。「いろいろな話がたくさんできた。」「親子で考え話し合う機会をこれからも設けてもらいたい。」という御意見を多数いただいた。

講師の宮本氏は「コミュニケーションは、壁とのキャッチボールと一緒に」とおっしゃっていました。普段、相手を大切にしていれば、向こうもこちらを大切にしてくれる。誠意ある行動を示していれば、向こうも誠意で返してくれる。基本的なことですが、慌ただしい毎日の中で疎かにしがちなことでもあります。授業の中で、このような当たり前のことについて改めて考えることが、生徒の将来の糧となることを願っています。

六合中学校だより『こころの窓』より

#### (イ) 授業公開(参観)

六合東小学校では、年間4回授業参観が行われており、そのうちの1回を全学級、道徳の授業公開としている。授業参観で道徳の授業を行う際には、授業参観後の懇談会で、どんなねらいで授業を行ったか教師から説明したり、授業を参観した感想を保護者に話していただいたりしている。そうすることで、一方通行の授業公開ではなく、道徳の授業を通して子供たちをどのように育てていくのか共通理解したり、保護者としての思いなどを確かめたりする機会として道徳の授業へ生かしていくようにしている。

道徳は、目には見えない心の授業であり、難しそうだと思いましたが、子供たちが一生懸命に考えて話し合っている姿が印象的でした。いろいろなことに気づき、生活に結びつけていくことができる分かりやすい授業でした。

保護者の感想より

### エ 学校間の連携の具体例

#### (ア) 三校合同研修会

六合中学校区では、平成28年度以前より、授業公開や授業についての話し合いなど合同研修会を行い、六合中学校区全体で授業改善に取り組んできている。また、生徒指導や特別支援教育などの面においても合同研修会を行い、情報を共有したり、共通した取り組みによって課題解決を図ったりしてきている。特に、生徒指導面については、『あいさつ』『だまってそうじ』『はきものそろえ』など、六合中学校区全体で取り組み、子供たちが落ち着いた態度で学校生活を送るようになるなど大きな成果をあげてきている。



六合中学校区で道徳教育研究の指定を受けた平成28年度と29年度においては、これまでの合同研修会で培ってきた小中の連携など、六合中学校区の特徴を生かした道徳教育を推進することができている。

#### (イ) 夏休み学習ボランティア

六合中学校の生徒が、夏休み期間に小学校を訪問して、学習補講や水泳教室で指導の補助を行っている。学習補講では困っている子に進んで声をかけたり、分かりやすく教えたりする姿が見られ、先輩としてとても頼りにされている。水泳教室でも、クロールの見本を見せたり、低学年の子と一緒に遊んだりして、水泳や浮いたりもぐったりする運動が苦手な小学生の味方になってくれている。年齢の近い先輩であるため、小学生にとって親しみが持て、親切に教えてくれた中学生に感謝の気持ちを持った小学生が多く見られた。



#### (ウ) ようこそ先輩・入学説明会

毎年、2月に、『ようこそ先輩』という活動が計画されている。卒業生が小学校を訪問して、中学校生活について話をしたり、6年生の質問に答えたりしている。6年生の中には中学校入学後の生活に不安を感じている子もいる。顔を知っている先輩が教えてくれることで不安を取り除いたり、中学校入学後も先輩として頼りにしたり、つながりをつくる機会となっている。

入学説明会では、中学校生活の紹介や合唱のプレゼント、英語や数学、音楽の体験授業などを行い入学に備えている。そのため毎年4月に良いスタートがきれている。



平成29年度 島田市立六合中学校 道徳教育全体計画

関係法規	願う生徒像	六合地区小中連携教育のねらい
・日本国憲法 ・教育基本法 ・学習指導要領・県教育振興基本計画「有徳の人」	心ゆたかに	【根幹となるもの】 ◇義務教育9年間を見通し、児童生徒の学習・生活状況を相互に理解し、小中が一貫した指導を行う。→9年間で子どもを見守り、育てる。 ◇共通した学力や指導の考え方に基づいて確かな学力の定着と一人一人の個性や能力の伸長や豊かな心の育成を図る。 【主なねらい】 (1) 確かな学力・豊かな心を育て、児童生徒が安心して学習・生活ができる環境・体制づくりを目指す。 (2) 道徳教育について、各校で共通した取り組みを行ったり、三校合同研修会において実践をもち寄ったりすることなどを通して、六合地区の特色を生かした道徳教育を推進する。 (3) 三校合同研修会、小中学校教員による交流授業、校内研修等の授業参観、生徒指導連絡会を通して、互いの見地から学習の仕方や生徒指導上のあらわれを共通理解し、教員の指導力向上に努める。
生徒の実態	学校教育目標	
○気持ちの切り替えが早い。 ○素直で明るい生徒が多い。 ○決められたことに一生懸命取り組む生徒が多い。 ○地域の行事や活動に積極的に参加することができる。  △自分で考えて行動する力が弱い傾向がある。 △自己肯定感が低い生徒がいる。 △自分で決めたことを、最後までねばり強くやり通すことが苦手な生徒がいる。 △挨拶、返事など、その場に合った適切な対応ができない生徒がいる。	ともに学び たくましく生きる 協働 自律 貢献	
	道徳教育目標	
	主体的に判断・行動し、 他者によりよく生きようとする生徒	
	三校共通の重点	
	自主・自律 思いやり	

本校の重点内容項目
A-(1)自主・自律、自由と責任 B-(6)思いやり、感謝

道徳の時間の指導方針		
連携研究部	授業研究部	実践研究部
・家庭、地域との連携の推進 道徳コーナー「心の窓」を使った情報発信 小学校での学習ボランティア参加 親子道徳を通じて保護者の願いを知る。 道徳授業公開や家庭・地域が参加できる授業展開の工夫 保護者、地域住民、教職員に向けた「道徳教育講演会」 道徳教育合同研修会の実施（市研修、小中連携研修） ・道徳教育の効果検証、評価 生徒、保護者、教職員の意識調査	・考え議論する道徳の授業づくり ①ねらいの明確化 ②発問の吟味 ③自己の振り返りの充実 道徳授業の足跡、工夫された板書検討、指導案形式検討 授業形態の工夫、合同研修会の内容検討 (掲示物の作成、板書を写真に残す、 発問を振り返り、生徒の表れを記録に残す など)	・道徳の時間と各教科等との関連的指導の工夫 全体計画、別業、年間指導計画の作成と活用 「私たちの道徳」の活用 (行事後のアンケートに重点項目に関する内容を扱う、 別業を拡大掲示し、教科指導に活用、 年間指導計画に実践日、改善点を記入。PDCAサイクル) 和文化教育 (道徳資料、語先後礼、履き物をそろえる、無言清掃)

各教科における目指す生徒の姿 ( )は本校重点項目を示す		生徒指導・生徒理解 ★は和文化教育を示す			特別活動
国語	・自分の考えに責任をもち、周囲の目を気にせず、自ら進んで書いたり、話したりしている。(A) ・小説(詩)において、登場人物の自主自律に基づいた生き方を読み取っている。(A) ・小説(詩)において、登場人物の他者に対する心遣いを読み取っている。(B)	○友達の間持ちや立場を考え、思いやりや感謝の気持ちを持って生活できる。 ・授業開始、終了時の語先後礼の指導を行う。★ ・あいさつ活動の充実を図る。  ○学校生活におけるルールやマナーについて考え、生活できる。 ・三旗掲揚、降納活動の実践。★ ・委員会活動を通して、服装、身なり、時間厳守、履き物を整えるなどの意識向上に向けて取り組む。★  ○健康、交通安全に配慮して、学校生活をおくることができる。 ・教室内の整理整頓や無言清掃を実践し、清潔で安全な生活環境をつくる。★			○まわりと協調し、よりよい生活や行事を実現することで新たな六中文化を築く。  【学級活動】 ・ふるさと探訪、職場体験、修学旅行を通して、生徒の自主性を高める。 ・生徒の自治的活動を促す学級指導を進める。
社会	・自由・権利と責任・義務との関係を正しく認識し、社会の主体者として公正に判断している。(A) ・人権について理解し、相手の立場を尊重して、共有できるルールや価値観を模索している。(B)	1年生 重点目標	2年生 重点目標	3年生 重点目標	【生徒会活動】 ・集団生活の向上を目指し、生徒の自治的活動を進める。 ・委員会活動を通して自分の役割に責任を持ち、積極的に行動する。 ・活動を通して、互いに協力する優しい心や態度を育てる。  【4大行事】 ・4大行事の運営を通して、仲間とともにやり遂げた達成感を味わわせる。 ・縦割り活動を通して、集団の中での自分の役割を自覚し、責任を果たす。 ・互いに励まし、高め合うことで、仲間との絆を深め、感謝する。また、感謝の気持ちを言動に表す。 ・地域の美化活動に取り組み、地域に貢献する心地よさを感じる。 ・地域に感謝を表すとともに、郷土を大切にしていこうとする心を養う。
数学	・事象を数理的に考察し、根拠をもとに考え表現しようとしている。(A) ・数学的な見方や考え方を、積極的に問題の解決に活用しようとしている。(A) ・さまざまな見方や考え方に触れることで、数学に対する理解が深まることに気づき、友達に感謝する。(B)	・周囲に左右されることなく、善悪の判断をすることができる。(A-1) ・相手の立場や気持ちを気遣うことができる。(B-6) ・はっきりした挨拶と、場に合った言葉遣いができる。(B-7)	・自分の行為が及ぼす結果について考え、望ましい行動をとることができる。(A-1) ・他者の考え方や気持ちを理解し、支えてくれた人たちに感謝することができる。(B-6) ・礼儀の意義を理解し、時と場に応じた振る舞いができる。(B-7)	・自分や社会に対して誠実で、責任をもった行動をとることができる。(A-1) ・他者の考えや気持ちを理解し、感謝の思いを言動で表すことができる。(B-6) ・マナー、挨拶、礼儀を大切に、爽やかな対応ができる。(B-7)	
理科	・自他の安全に配慮して観察・実験を行い、観察記録や実験結果について、科学的に自分の考えをまとめている。(A) ・互いの考えを尊重しながら話し合い活動に取り組んでいる。(B) ・自然現象との関わりの中で、先人が行った実験や観察の結果が、科学技術の発展や自然環境保護に役立ち、自分たちの暮らしが豊かになっていることに気づく。(B)	特別支援教育・インクルーシブ			
音楽	・合唱教材において、詩の内容や音楽の三要素であるメロディー・リズム・ハーモニーを自分なりの考えを持ち、積極的に表現している。(A) ・詩の内容から自由と責任を感じて合唱している。(A) ・詩の内容により思いやり・感謝を感じて合唱している。(B)	○特別支援学級の生徒における道徳の姿 ・障害による学習、生活上の困難を改善、克服して強く生きようとする。 ・障害の状態や経験等に応じて、体験的な活動に積極的に参加できる。 ○特別支援教育 ・障害のある生徒、障害と認識されていないが学習や生活が困難な生徒、すべての生徒が学びやすいように、環境や授業のユニバーサルデザイン化を図る。 ・障害者理解を推進することにより、周囲の生徒が障害のある生徒と共に学び合い生きの中で、公平性を確保しつつ社会の構成員としての基礎づくりを進めていく。			
美術	・自分で主題を決め、形、構成、色、タッチなどの表現方法を工夫しながら制作している。(A) ・自他の生徒作品や著名な作家の作品から、表現方法や技術を学び、意欲的に自分の作品に生かそうとする。(A) ・鑑賞活動において、自他の作品を大切に扱い、作品に込められた意味や思いを感じ取ろうとする。(B)	家庭との連携			島田市
保健	・まず技を実践し、手本となる動きや仲間の助言を参考に、自己課題を明確にもち、自ら解決のための方法を考え、練習方法などを工夫して安全に意欲的に学習に取り組んでいる。(A) ・自他の健康に関心を持ち、互いに協力し合いながら、運動を楽しんでいる。(B)	・学校便り「心の窓」発信 「私たちの道徳」 コラム、詩の紹介 ・親子道徳、講演会(保護者の願いを知る。) ・2月授業参観で道徳授業公開 ・HPより、生徒の表れや日頃の様子を発信			○「豊かな心」をもつ子どもの育成 ・道徳の時間の充実 ・各学校の実態に応じた特色ある活動 ○「思いやりの心」「規範意識」「自尊感情」を育む 道徳教育の一層の充実 ・道徳の時間と各教科が効果的に関連し合う道徳教育全体計画の作成 ・発達の段階に応じた道徳の時間の充実
技術	・栽培方法や回路構成、丈夫な構造など、互いに試行錯誤を重ねながら、工夫して学習に取り組もうとしている。(A) ・身に付けた基礎的・基本的な知識及び技術を、積極的に生活に活かそうとしている。(A) ・実験や作業学習を互いにサポートし合っている。(B) ・先人の知恵の素晴らしさに感動している。(B) ・生物育成に関する技術が、食料、生産、生活環境など、多くの役割を持つことに気づく。(B)	地域との連携			
家庭	・衣食住について学んだ知識や技能を活かして、自己の生活をより良くしようとしている。(A) ・家庭生活や地域社会と自分について考え、今まで支えてくれた人々に感謝の念をもつ。(B) ・自他の健康や健全な成長に関心を持ち、互いの考えを尊重しながら学び合っている。(B)	・古紙回収を通して、地域の人との交流を増やし、社会性を高めるとともに、言葉遣いや礼儀を学ぶ。 ・職場体験や奉仕作業などを通して、地域の方とのふれあいをもち。 ・地域の方へ感謝の気持ちを表すことができる。 ・地域の行事へ積極的に参加し、社会の一員であることを理解する。			
英語	・我が国及び外国人の文化の習慣や考え方を理解し、さらに自分なりの考えをもって学習に取り組んでいる。(A) ・我が国及び外国人の文化に関心をもって学習に取り組み、相手の立場を尊重しながらコミュニケーションを図ろうとしている。(B)	島田市			
総合	・キャリア教育を通して、自分の将来の生き方について自分なりに考え、進路選択する。(A) ・福祉教育を通して、相手の立場や気持ちを思いやろうとする。(B)				

児童の実態
<ul style="list-style-type: none"> <li>○素直</li> <li>○気持ちの切り替えが早い</li> <li>○人の役に立つ行動ができる</li> <li>△人の気持ちを察することができない</li> <li>△場に応じた正しい判断ができない</li> </ul>

教師の願い
<ul style="list-style-type: none"> <li>・正しく判断し、進んで行動できる子</li> <li>・相手を思いやり、場に合った言動ができる子</li> <li>・自発的にあいさつができる子</li> <li>・人の役に立つ活動に進んで取り組む子</li> </ul>

家庭・地域の願い
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えをはっきりと言える子</li> <li>・あいさつや返事ができる子</li> <li>・根気強く最後までやり抜く子</li> <li>・目標をもち努力する子</li> </ul>

学校教育目標  
心豊かに たくましく生きる子

学校重点目標  
考えよう！ 動こう！ 自分のために・相手のために

道徳重点目標  
主体的に判断・行動し、他者とより良く生きようとする児童

六合中学校区三校共通の重点 **「自主自律」「思いやり」**

教科における「目指す児童の姿」		
科	善悪の判断自律、自由と責任	思いやり・親切
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えをもち、進んで書いたり、話したりしている。</li> <li>・物語文において、登場人物の自主・自立に基づいた生き方を読み取っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の発言をしっかり聞き、反応している。</li> <li>・物語文において、作者や登場人物の他者に対する思いやりを読み取っている。</li> </ul>
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平和で民主的な国家・社会の一員としての自覚をもち、他の人格を互いに尊重しながら、社会的義務や責任を果たそうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会との関わりの中で、先人たちの残した文化や様々な農産物や工業製品などをつくる人々の苦労を理解し、感謝の気持ちをもちながら、理解を深めようとしている。</li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習事項をもとに考え、表現しようとしている。</li> <li>・数学的な見方や考え方を活用し、積極的に問題解決をしようとしている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の考えをよく聴き、協力して課題解決に取り組んでいる。</li> </ul>
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全に気をつけて観察、実験をしている。</li> <li>・観察、実験を通して、科学的なものの見方で考えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然環境と自分たちの生活が密接に関わり合っていることを知ることで、自然に対する感謝の気持ちや自然を大切にしていこうという気持ちをもっている。</li> </ul>
生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校探検や校外学習などにおいて、ルールやマナーを守って活動している。</li> <li>・動植物の世話を最後まで責任をもって行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・異学年の交流活動では、年下の友達のことを考えて活動を計画、実践しようとしている。</li> </ul>
音楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(低) 音楽ゲームにおいて、順番やルールを守って参加している。</li> <li>・(高) 難しいと思う歌や曲でも、一生懸命練習している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(低) 友達と心をつなげて歌詞に合った歌い方で歌おうとしている。</li> <li>・(高) 合唱や合奏において、友達と教え合っって曲をつくらうとしている。</li> </ul>
図工	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分で表したいことを決め、材料や用具の特徴を生かして表現しようとする。</li> <li>・製作する際の約束を守り、安全に気をつけて活動している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分や友達の作品を大切に扱い、鑑賞活動を通して、お互いの作品の良さを認め合おうとする。</li> </ul>
家庭科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・衣食住について学んだ知識や技能を生かして、毎日の生活をより良く過ごす方法を考えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族のことを思いやって、献立を立てたり、家庭の仕事に取り組もうとしたりしている。</li> </ul>
体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・きまりを守り、活動を工夫して、各種の運動を楽しくできるように取り組んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と協力して、運動に取り組むことができる。</li> </ul>
外国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えや思ったことをはっきりと伝えるときにも他者の問いかけに反応をしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の問いかけに対してうまく反応できたら「Good job!」などのポジティブな反応をしたり、間違えてしまったときには「Don't mind.」などの励ましの言葉をかけている。</li> </ul>

学年重点目標

<p>【低学年】 よいことと悪いこととの区別をし、よいと思うことを進んで行うこと。 A-（1） 身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること B-（6）</p>	<p>【中学年】 正しいと判断したことは、自信をもって行うこと。 A-（1） 相手のことを思いやり、進んで親切にすること B-（6）</p>	<p>【高学年】 自由を大切にし、自律的に判断し、責任ある行動をとること A-（1） 誰に対しても思いやりの心をもち、相手の立場に立って親切にすること B-（7）</p>
--	--	---

【えがお】  
よいことと悪いこととの区別をし、よいと思うことを進んで行うことができる。A-（1）  
身近にいる人に温かい心で接し、親切にすることができる。B-（6）

道徳の時間

すべての教育活動を補充、深化、統合し、児童の道徳的価値の理解を深め、道徳的判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

道徳の授業の指導方針

考え、議論する道徳の授業づくり  
○ねらいの明確化 ○発問の吟味 ○自己の振り返りの充実

教育環境の充実・整備	学年・学級	家庭・地域との連携
<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳コーナーの設置</li> <li>・挨拶運動の推進</li> <li>・あたたかい言葉遣い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○マナー、ルールの徹底</li> <li>○暖かく支える学年・学級づくり</li> <li>・一人一人に居場所</li> <li>・一人一人の活動の場がある。</li> <li>・友達を思いやることができる。</li> <li>・友達と協力することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校だより（道徳コーナー）</li> <li>・親子道徳・参観会での道徳授業公開</li> <li>・学年だより、学級だより</li> <li>・懇談会等による啓発</li> <li>・保護者、地域人材の活用</li> <li>・保、幼、中、お年寄りとの交流</li> </ul>

特別活動

○よりよい生活を目指し、自治的・自発的に活動することができる。  
○他を思いやり、お互いに助け合いながらみんなのために活動することができる。（ハッピー活動）  
【学級活動】  
・学級における生活向上・充実のための活動、係活動、当番活動  
【児童会活動】  
・代表委員会、委員会活動、児童集会、ペア活動  
【クラブ活動】  
・クラブ活動、クラブ発表  
【学校行事】  
・儀式的行事、健康・安全・体育的行事、遠足・集団宿泊的行事

生徒指導

○集団の中でのルールとマナーを大切にし、正しいと思うことを進んで行うことができる。  
○相手にとっても自分にとっても気持ちのよいことができる。  
・善悪の判断  
・六合小のきまり  
・場に合った言葉遣い  
・気持ちのよいあいさつ、返事【和文化】  
・履物をそろえる「かかとピタ」【和文化】  
・だまってそうじ【和文化】

六合東小学校 道徳教育 全体計画別葉 (4年)

重点目標		主体的に判断・行動し、他者とよりよく生きようとする児童											
重点内容項目		A-(1) 善悪の判断、自律、自由と責任 正しいと判断したことは、自信をもって行うこと。						B-(6) 親切 思いやり 相手のことを思いやり、進んで親切にすること。					
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学校行事		遠足A(1) B(6)		海の学校A(1) B(6)	五郎祭		運動会A(1) B(6)			学習発表会A(1)B(6)			
道徳		わすれ物O作戦 手のひらの勇気	おはよう坂 ひとりぼっち ケンタを助けよう	お母さんのせい求書 一つのミニトマト 美しい柿田川 字を書く喜び	コンビニエンスストア 日曜日のパーベキュー 大きなあれバッコヤナギ		夢に向かって頑張る私たちの先ばい 二人三脚リレー えみさんのコンパス いつもいつも	よわむし太郎 あなたの誕生 深良用水 よごれた配せん台	ぶらんこ復活 駅での出来事 心と心のあく手 同じ仲間だから	ピンチをはね返せ 空き缶拾い(2)	ありがとうは、まほうの言葉 絵はがきと切手 じゃんけんで遊ぼうよ	泣いた赤おに わたしの夢 わたしの筆箱	勇者になりたい つるの飛ぶ日
特別活動		係活動A(1)	ペア活動B(6)		ペア活動B(6)		係活動A(1)		ペア活動B(6)	ペア活動B(6)	係活動A(1) ありがとういっぱい の会B(6)	ペア活動A(1)B(6)	6年生に感謝する会B(6) ペア活動A(1) B(5)
教科	国語	登場人物の人柄をとらえ、話し合おう 白いぼうし A(1)登場人物の人柄について、進んで話し合おうとしている。 B(6)相手の考えを相づちを打ちながら聞こうとしている。			場面の様子に着目して読み、しょうかいしよう 一つの花 B(6)友だちの紹介を聞きながら、自分と友だちの感じ方の違いを見つけようとする。		誰もが関わり会えるように手と心で読む A(1)自分の興味のある内容について進んで調べたり、話したりしている。 B(6)様々な立場の人がいることに気づき、相手の立場に立って考えようとしている。	読んで考えたことを話し合おう A(1)自分の興味のある内容について進んで調べたり、話したりしている。 B(6)様々な立場の人がいることに気づき、相手の立場に立って考えようとしている。					
	社会	安全なくらしとまち作り A(1)身の周りの事象に関心をもち、約束を守って意欲的に調べ学習に取り組もうとしている。 B(6)災害や事故の防止に努める関係機関や地域の人々の工夫を知ろうとしている。		健康なくらしとまちづくり A(1)身の周りの事象に関心をもち、約束を守って意欲的に調べ学習に取り組もうとしている。 B(6)健康で良好な生活のために、計画的、協力的に廃棄物の処理や飲料水の確保につとめている人々の思いを知ろうとしている。									
	算数		計算のしかたを考えよう A(1)48÷3の計算の仕方を既習事項を基に図や式を使って説明しようとしている。 B(6)友だちの考えをよく聞いて、学び合っている。		1けたでわるわり算 A(1)(2, 3位数)÷(1位数)の筆算を既習内容を関連付けながら考えようとしている。 B(6)友だちの言っていることを理解しようとしながら聞こうとしている。				面積 B(6) 面積の大きさを数値化する 方法やいろいろな形の面積について、友だちの考えをよく聞いて学び合っている。	小数のかけ算とわり算 A(1)小数のかけ算やわり算の意味や計算仕方を、既習内容を関連付けながら考えようとしている。			
	理科		天気と気温 A(1)1日の気温音変化を温度計など使って適切に測り、その過程や結果をしっかりと記録しようとする。						私たちの理科室 ものの温度と体積・ものの温まり方 A(1)理科室にある実験器具を安全に使用して実験しようとする。 B(6)友だちと協力して、実験結果を記録したり考察したりしている。			すがたを変える水 自然の中の水 A(1)理科室にある実験器具を安全に使用して実験しようとする。 B(6)友だちと協力して、実験結果を記録した、考察したりしている。	
	音楽			拍の流れによってリズムを感じ取ろう A(1)拍子やリズムの特徴を感じ取りながら、自分の意図をもってリズムアンサンブルを作ろうとしている。 B(6)互いの考えの良さを認め合いながら、協力してリズムアンサンブルを作ろうとする。					いろいろな音のひびきを感じ取ろう A(1)材質による音の特徴とその響きの違いを生かしながら自分なりの表現をしようとしている。 B(6)友達と互いの演奏を聴き合いながら、友だちと演奏する喜びを味わおうとする。				
	図工		見つけたよこの色すてきだね A(1)自分が作り上げた色に自信をもち楽しみながら作品を作ろうとする。 B(6)友だちの作った色を味わうことを通して、心を開き、友だちと仲良く活動しようとする。	トントんつないで A(1) 安全面に配慮しながら、想像力を働かせて作品を作ろうとしている。						ハッピーカードB(6)			ほると出てくる不思議な花 A(1) 安全面に配慮しながら、想像力を働かせて作品を作ろうとしている。
体育・保健			ネット型ゲーム A(4)規則を守り勝敗を受け入れながら、進んでゲームを楽しもうとする。 B(6)みんなが楽しめるように規則を工夫しようとしている。		浮く運動・泳ぐ運動 A(4)浮く・泳ぐ運動の約束を守って、安全に気をつけて運動しようとする。 B(6)友だちと励まし合って、仲良く運動しようとする。		表現・リズムダンス A(4)リズムの特徴を感じながら、自信をもって踊ろうとする。 かけっこ・リレー B(6)バトンパスを試しながら、自分やチームの課題を見つけ、友だちと協力し合いながら課題に取り組もうとする。		ベースボール型ゲーム A(4)規則を守り勝敗を受け入れながら、進んでゲームを楽しもうとする。 B(6)みんなが楽しめるように規則を工夫しようとしている。			育ちゆく体とわたし B(1)発育。発達には個人差があることを理解する事で、	ゴール型ゲーム A(1)規則を守り勝敗を受け入れながら、進んでゲームを楽しもうとする。 B(6)みんなが楽しめるように規則を工夫しようとしている。
総合的な学習の時間			海の学校に向けて A(1)集団生活での約束やマナーをきちんと守り、善悪の判断をしっかりとつけて活動しようとする。 B(6)友だちと様々な活動を協力して行う中で、友だちの良さを見つけようとする。		福祉学習「みんなしあわせ♡わたしたちのまち」 B(6) 体の不自由な方やお年寄りとの交流と体験を通して、誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って考えようとしている。						福祉学習「みんなしあわせ♡私たちのまち」 自分たちができる事を考えよう。 A(1)まちのために自分ができると思うことを、自信をもって取り組もうとする。 B(6)様々な立場の人の思いを感じ、自分ができる事を一生懸命行おうとする。		

## おわりに

私たちの学区「六合」の地名は、道悦島、阿知ヶ谷、東光寺、岸、細島、御請新田の六つの村が合併し一つとなったことに由来していると言われています。それぞれ単独の村であった六つの地区が「六合」の名前のもとに連携し、発展をしてきたように、私たち3校も以前より生徒指導、授業をはじめとした様々な教育活動で、教職員や児童生徒が交流する場を積極的に設け、連携を図ってきました。平成28年度、六合中学校区が文部科学省から「道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業」、静岡県教育委員会から「道徳教育推進事業」の委託を受けました。私たちは、これまでの3校連携の組織、方法を生かしながら、道徳教育推進の研究をスタートすることにしました。

研究を始めるにあたって私たちが一番に考えたのは、小中9年間の道徳教育を通して、六合地区3校としての目指す児童生徒の姿とそれに迫るための道筋を明らかにすることでした。そのために、3校の教育目標を照らし合わせ、込められた共通の願いを考えるとともに、児童生徒の実態をあらためて検討し、目指す姿につながる研究主題、共通の重点を設定しました。また、それらをもとに、重点内容項目に特化した全体計画、別葉、年間指導計画を作成し、目指す姿に迫る道筋を明らかにしました。

授業において大切にすることは、失敗を恐れず、挑戦をすることでした。「考え、議論する道徳」の授業とはどのような授業か。暗中模索の状態から研究は始まりました。まずは原点に立ち返ろうと、教材研究の際には『学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』に目を通し、指導観を明確にすることを心掛けました。授業を構想する際には、今までタブー視されていたものも含め、いろいろな指導方法を試みました。指導の型を追い求めるのではなく、児童生徒の実態を把握し、授業の主題やねらいに応じて適切な指導方法を考えることが重要であるとわかってきました。「挑戦」という言葉が私たちの合言葉になりました。

研究を始めて2年。目指す児童生徒の姿に照らし合わせた時、まだまだ研究は道半ばであると感じています。しかし、児童生徒、教職員のそれぞれの姿に確かな変容も見られるようになりました。友達と学び合う中で、自分の考え方が広がり、考えが深まっていると実感している児童生徒が増えてきました。道徳の授業で考え、学んだことを普段の生活で実践をしようと心掛け、実践につなげている児童生徒も増えてきています。私たち教職員においては、道徳について、児童生徒の表れや指導方法を日常的に話題にすることが増えました。職員室のあちこちで、時には楽しく、時には熱心に道徳の授業について語り合う姿が、たくさん見られるようになりました。これまでの3校連携では、小学校教員と中学校教員の間「教科の壁」が感じられた研修が、道徳という同じ土俵で授業を見合い話し合うことで、深まりのあるものに変わり、3校の連携が更に進んできていることも実感しています。

さらに、こうした取組を足並みをそろえて行うことで、目指す児童生徒の姿を地域や保護者と共有することもできるようになりました。

この2年間の研究成果をもとに、六合地区の児童生徒を、目指す姿にまで変容させるよう、今後も研究を継続していきたいと考えています。

平成29年11月22日

島田市立六合東小学校長 櫻井 真二



研究同人

御指導いただいた講師

柳沼 良太 氏〈岐阜大学大学院准教授〉  
 長谷 徹 氏〈元東京家政学院大学教授〉

本研究を支えた職員一同

六合中学校

園田 豊	山内 壱郎	青島 信裕	西野 恵子	鈴木 克哉
牧野 由朗	藤村 香	原木 明子	奥野 勝美	森永 健男
蒔田 幹之	鈴木 孝則	一色 淳	笠原 真智子	藤原 敦子
河原崎 智勝	加瀬 尚子	塚本 梨穂	小畑 智緩	竹森 恵子
四俣 勝	吉田 美佳子	諏訪 洋平	渡邊 真衣子	杉山 真由美
織田 卓太郎	村田 伸雄	原 正寛	八木 良子	杉山 正美
杉本 恵美	増田 泰征	山崎 直美	北川 裕美	
平成28年度職員				
中島 貢	松浦 利幸	水野 喜郎	坂本 正規	辻元 智
山崎 貴実子	櫻井 貴彦	伊藤 明実		

六合小学校

山口 泰弘	稲森 孝之	杉岡 弘巳	鈴木 一行	芹澤 豊
戸田 正吾	栗田 弥子	田中 学	大石 典子	淀村 美弘
石田 昌史	内山 幹生	茂木 寿子	田原 徹也	小泉 智幸
原崎 由美	山本 修	山本 加奈恵	杉本 聡子	塚田 かり
益田 美帆	杉本 佳那子	加藤 志帆	安竹 克真	蒔田 かり
鈴木 亜依子	加藤 美帆子	高木 真智子	奈良 橋紗耶	鈴木 翔太
渡邊 三知子	中村 美代子	石切 山加奈子	増田 麻実子	高木 剛秀
池谷 美幸	小澤 美香	永井 有依子	秋山 英三子	
平成28年度職員				
杉本 美智子	大石 浩美	野中 暁子	石神 朝子	杉山 真希
川添 俊一郎	服部 貴文	臼井 寛	相澤 扶美代	三浦 康世

六合東小学校

櫻井 真二	畑 浩	南 恵之	今泉 泰美	戸田 敏子
亀山 修児	秋山 綾子	小川 桂子	秋山 安有美	高橋 健太郎
片川 智帆	柴田 千春	陶山 茂男	栗原 美桜	大石 清香
青木 史弥	杉本 健	伊藤 満美	伊藤 亜佑子	下出 菜摘
中村 佳世	鈴木 美有紀	白鳥 絢子	大塚 克朗	鈴木 崇洋
堀井 一恵	杉岡 英司	飯塚 留美子	森田 奈津美	松田 奈央
高橋 良美				
平成28年度職員				
齋藤 啓世	齊藤 静代	大石 昌徳	安田 美峰子	飯塚 恵味
神間 里子	川西 真夢	増尾 昌子	新聞 成子	

発行 平成29年11月22日  
 発行元 島田市立六合中学校  
 〒427-0019 静岡県島田市道悦二丁目25番1号  
 TEL : 0547-35-1121 FAX : 0547-35-1122  
 島田市立六合小学校  
 〒427-0019 静岡県島田市道悦五丁目13番1号  
 TEL : 0547-37-2711 FAX : 0547-37-2732  
 島田市立六合東小学校  
 〒427-0011 静岡県島田市東町1200番地  
 TEL : 0547-35-3866 FAX : 0547-35-2184